

事業報告

平成 29 年度 法人本部 事業報告

本年度は、中期基本計画（平成 27～29 年度）の最終年度として法人本部、障害者支援、高齢者支援の各部門とも計画の着実な実現に向けて取り組みました。また、平成 30 年度を初年度とする次期中期計画（計画期間 3 年間）を策定しました。

本年度の特徴的事業として法人創設期以来となる大型プロジェクトとして、武蔵野市吉祥寺北町 5 丁目に障害者支援施設を建設する準備に取り掛かりました。平成 31 年 3 月の開所にむけて、準備担当職員を任命し、東京都や武蔵野市と運営、補助金等についての協議や、近隣住民への説明会、利用申込の受付、入札を実施し、建設も着工しました。地域の皆様と連携、協議して進めてまいりました。

また、法人全体の提供サービスの質の向上に資するため、本年度も人材育成に力を注ぎ、職員研修のさらなる充実や、昇任試験や人事評価により意欲ある職員の登用も行いました。

また新たな指定管理委託となった武蔵野市障害者福祉センターも地域のニーズをしっかりと受け止めた事業展開が図れるようこれまでの事業を継承し、軌道に乗せることができました。

社会福祉法の改正にともない、理事会、評議員会の役割も明確及び透明化し、事業を分かりやすく市民の皆様にも伝えてきました。その一環としてホームページの更新や、フェイスブックを新たに立ち上げました。

法人は、今後も安全安心なサービスを提供することを心がけ、利用者様やご家族の満足度を向上させつつも、一部厳しい経営をしいられている施設の経営改革、運営改善をはかり、収支を好転させ、将来に備えた経営基盤の強化に努めてまいるとともに、職員一丸となって「地域社会に役立つ」の理念のまに、更なるサービスの向上に励んでまいります。

1 法人全事業でサービスを提供した人、件数 (延数/年間)

障害者関係	施設サービス	100,729 名	(昨年 87,009 名)
	支援・相談等	28,075 件	(昨年 27,521 件)
高齢者関係	施設サービス	41,370 名	(昨年 44,025 名)
	支援・相談等	9,170 件	(昨年 9,171 件)
合 計	施設サービス	142,099 名	(昨年 131,034 名)
	支援・相談等	37,245 件	(昨年 36,692 件)

2 理事等役員及び職員数及び参加ボランティア数 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

理 事	7 名	正規職員	145 名
評 議 員	9 名	嘱託職員	40 名
監 事	2 名	臨時職員	121 名
第三者委員	3 名	職員合計	306 名
ボランティア数	延 5,393 名		

3 苦情解決 苦情受付件数 17 件 (障害者施設 11 件 高齢者施設 6 件)

4 職員採用、異動等

- (1) 法人職員 採用 15 名 (一般支援 8 名 看護師 3 名 理学療法士 1 名 作業療法士 1 名
専門相談員 1 名 一般事務 1 名)
退職 7 名 (一般支援 5 名 看護師 1 名 施設長 1 名)
(内、定年退職者 3 名)
- (2) 職員人事異動 44 名 (昇任 12 名 配置転換等 32 名)

5 資格取得者数

社会福祉士	61 名	(内、今年度取得者 3 名)
-------	------	----------------

介護福祉士	64名	(内、今年度取得者0名)
介護支援専門員	38名	(内、今年度取得者1名)
精神保健福祉士	10名	(内、今年度取得者0名)
訪問介護員	31名	(内、今年度取得者0名)
看護師・保健師	18名	(内、今年度取得者0名)
保育士	19名	(内、今年度取得者0名)

※本年度 当法人資格取得支援制度による合格者4名

6 理事会の開催

- (1) 第1回理事会 平成29年5月29日(月) (出席者 6名/7名中)
 - ① 議案第1号 平成28年度事業報告
 - ② 議案第2号 平成28年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
 - ③ 議案第3号 平成28年度決算附属明細書について
 - ④ 議案第4号 財産目録について
 - ⑤ 議案第5号 平成29年度社会福祉充実計画の承認について
 - ⑥ 議案第6号 社会福祉法人武蔵野報酬等規程の一部を改正する規程(案)の評議員会への提出について
 - ⑦ 議案第7号 理事及び監事の選任に関する議案の評議員会への提出について
- (2) 第2回理事会 平成29年6月29日(木) (出席者 6名/7名中)
 - ① 議案第8号 理事長互選
 - ② 議案第9号 社会福祉法人武蔵野 育児休業等規程の一部を改正する規程
 - ③ 議案第10号 社会福祉法人武蔵野 介護休業等規程の一部を改正する規程
 - ④ 議案第11号 苦情解決第三者委員の選任について
 - ⑤ 議案第12号 苦情解決第三者委員の選任について
 - ⑥ 議案第13号 苦情解決第三者委員の選任について
- (3) 第3回理事会 平成29年10月25日(水) (出席者 7名/7名中)
 - ① 議案第14号 (仮称)吉祥寺北町施設の入札参加条件等について
- (4) 第4回理事会 平成29年12月14日(木) (出席者 6名/7名中)
 - ① 議案第15号 (仮称)吉祥寺北町施設の入札結果等について
 - ② 議案第16号 (仮称)吉祥寺北町施設建設に係る資金の借入について
- (5) 第5回理事会 平成30年3月20日(火) (出席者 6名/7名中)
 - ① 議案第17号 平成29年度収支補正予算(第1回)
 - ② 議案第18号 中期基本計画(平成30年度～32年度)
 - ③ 議案第19号 平成30年度事業計画
 - ④ 議案第20号 平成30年度収支予算
 - ⑤ 議案第21号 臨時職員就業規則の一部を改正する規則について
 - ⑥ 議案第20号 再雇用職員就業規則の一部を改正する規則について
 - ⑦ 議案第21号 施設長人事の同意について

7 評議員会の開催

- (1) 第1回評議員会 平成29年6月29日(木) (出席者 7名/9名中)
 - ① 議案第1号 平成28年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
 - ② 議案第2号 財産目録について
 - ③ 議案第3号 平成29年度社会福祉充実計画の承認について
 - ④ 議案第4号 社会福祉法人武蔵野報酬等規程の一部を改正する規程
 - ⑤ 議案第5号 理事の選任について

- ⑥ 議案第 6 号 理事の選任について
- ⑦ 議案第 7 号 理事の選任について
- ⑧ 議案第 8 号 理事の選任について
- ⑨ 議案第 9 号 理事の選任について
- ⑩ 議案第 10 号 理事の選任について
- ⑪ 議案第 11 号 理事の選任について
- ⑫ 議案第 12 号 監事の選任について
- ⑬ 議案第 13 号 監事の選任について
- ⑭ 議案第 14 号 苦情解決第三者委員に関する意見聴取について

- 8 事業並びに会計監査 平成 29 年 5 月 24 日(水) (出席者 赤塚監事、安田監事)
平成 28 年度事業及び会計監査を施設長並びに会計担当者からのヒアリング、書類審査

9 各種会議・委員会の開催

- (1) 経営企画会議 法人経営、施設運営に関する報告、検討、決定 毎月末日開催
- (2) 施設長会議 経営企画会議を受けて報告、検討、決定 毎月月初開催
- (3) 障害者施設長会議 施設運営に関する課題検討、決定 毎月第 3 火曜日開催
- (4) 障害者施設運営連絡会議 月次定例報告、課題の検討 隔月第 1 週稼働日 3 日日開催
- (5) 人事給与検討委員会 新評価制度等の研究、検討・実施 (平成 29 年度は開催なし)
- (6) 研修委員会 職員研修計画、企画、検討、実施運営 月 1~2 回開催
- (7) 中央衛生委員会 職員の労働環境や健康、衛生に関する検討、実施 年 4 回開催
※ 事業場衛生委員会は毎月開催
- (8) 情報セキュリティ委員会 個人情報保護、漏洩防止の検討、実施 (施設長会議で毎月開催)
- (9) リスクマネジメント委員会 事故事例検討、再発防止対策等の協議 (施設長会議で毎月開催)
- (10) 広報委員会 広報紙やHPの企画、構成、発行、内容検討等 定期的に開催
- (11) 第 8 回実践発表会 平成 29 年 11 月 7 日(火) 参加者 210 名
エントリー数 12 事業所、発表 4 事業所 (金賞はふれあい)
- (12) 快適職場アクション 2017 誰でも相談室、職場復帰支援プログラムの運用
ストレスチェックの実施(平成 29 年 7 月 12 日~26 日)
新任施設長、係長面談
- (13) 職員確保プロジェクト 職員採用のためのプロジェクト発足 各大学、専門学校への就職斡旋、広報活動

10 職員研修

毎月の研修委員会で検討、企画し、今年度は主に各階層別の研修を実施

- (1) 初級職員研修 (対象：1~3 年目職員)
 - ① 採用時新人職員研修 (対象：新人職員)
 - 実施日 平成 29 年 4 月 3 日(月)~5 日(水) 参加者 17 名
 - 内 容 法人・各施設の概要と課題、見学、挨拶、支援・介護の基礎、法人規程等の講義
 - ② 半年後新人職員研修 (対象：新人職員)
 - 実施日 平成 29 年 10 月 14 日(土) 参加者 15 名
 - 内 容 理事長講話 「人間関係力を磨こう」 講師：三好良子氏 (人材育成コンサルタント)
 - ③ 初級職員研修 (対象：2 年目職員)
 - 実施日 平成 29 年 7 月 29 日(土) 参加者 10 名
 - 内 容 理事長講話 「人間関係力を磨こうⅡ」 講師：三好良子氏 (人材育成コンサルタント)
 - ④ 初級職員研修 (対象：3 年目職員)

- 実施日 第1回 平成29年11月24日(金) 参加者12名
 実施日 第2回 平成30年1月27日(土) 発表者12名 ※2年目職員10名参加
 内 容 提案力・伝達力・育成力強化のため、個々の業務上の課題、取組、成果を各自発表
- (2) OJTリーダー研修(対象:新人職員育成担当者)
 実施日 平成29年4月10日(月) 参加者10名
 内 容 職場内新人職員研修のリーダーの役割等説明
- (3) 全体説明会
 実施日 平成29年4月14日(金) 参加者142名
 内 容 理事長講話、法人の今年度の重点事業の取り組みについて
- (4) 施設長・係長研修
 実施日 平成29年4月22日(土) 参加者22名
 内 容 「法人の未来をポジティブに語り合う」講師:三好良子氏(人材育成コンサルタント)
- (5) 新任係長評価者研修
 実施日 平成29年4月11日(金) 参加者3名
 内 容 「社会福祉法の改正と地域における公益的な取り組みについて」
 講師:社会福祉法人中心会 理事長 浦野 正男 氏
- (8) 中堅層リーダー層職員研修
 実施日 平成29年12月2日(土) 参加者19名
 内 容 「人を育てる人になる」講師:尾崎 真三 氏(C&P.etc.代表)

11 災害対策等

- (1) 防災訓練等(障害者総合センター)
 平成29年7月13日(木) 避難訓練
 平成29年11月16日(木) 避難訓練
- (2) 普通救命講習
 平成29年7月29日(土) 参加者23名
 平成30年3月10日(土) 参加者20名
 ※受講者累計110名(正規職員は全員取得を義務付け)

12 地域交流(障害者施設部門)

- 第17回むさしのあったかまつり(市内障害者団体等24団体参加)
 日 時 平成29年10月21日(土)
 会 場 武蔵野障害者総合センター、さくら並木公園
 来場者 約900名

13 広報活動

- (1) ホームページ運営(毎月更新し、最新情報を掲載)
 (2) FMむさしのCM提供(平日18時~)
 (3) 広報紙「ぶれっそ」の発行(第36号から39号まで)
 (4) 月報「武蔵野日記」を創刊(毎月発行)
 (5) 法人専用電子メールアドレスによる法人内の連絡・情報の共有化の改善、活用の徹底

14 その他

- (1) 月次会計監査の実施 会計事務所による会計監査の毎月実施 消費税計算及び会計相談等
 (2) 見学者・来館者対応 平成29年度来館者 357名
 (3) 安全運転管理 安全運転講習会(総合センター)平成30年1月24日(水)

平成29年度 指定障害福祉サービス事業
「ワークセンター大地」(生活介護)事業報告

1 事業運営について

今年度は、4月1日付で特別支援学校の卒業生が2名、7月1日付で他区にある事業所から1名が移行して入所された。在籍者は一時期56名となり、過去最高の登録者数となった。しかし、年度途中で持病の悪化により自宅療養中の方が亡くなられ、また、他事業所(当法人内の)移行があり、最終的には54名の登録者となった。

「利用者の状況」の項目で示すように、稼働率が高く推移しているため、毎月の利用率が定員を超え、昨年度実績をも超える結果となっている。

日中活動の基本は、利用者自身が「主体的に取り組む」ことを念頭に置き、どの活動にも積極的にかつ、参加意欲をより高めていけるような工夫と、利用者自身の意向や決定を活かせる活動の設定、理解を深めていくことを目指し、支援内容の工夫をした。

また、生活介護事業を展開するデイセンターふれあい、デイセンター山びことともに、横断的な活動プログラムの試行、お互いが所属に拘らない活動の運用も模索した。(hicobaeの合同運用や地域活動を積極的に行っている団体との交流等)

合わせて、合同の研修会の開催、合同会議など、生活介護3事業所の発展的で無駄のない一体化運営に向けて、その足掛かりとした1年であった。

来年度は、障害者支援施設の開設を予定している。少なからず通所部門にも運営上の影響が予想される。事業再編成を睨みつつ、既存サービスを整える1年としたい。

今年度の稼働日は244日、延べ利用人数11,773人、1日平均48.25人(昨年度比+2.55人)であった。

2 利用者の状況

(平成30年3月31日現在、単位：人)

(1)利用者数

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	40	3	2	41
女性	13	0	0	13
合計	53	3	2	54

(2) 年齢別利用者数

平均年齢 36.7歳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	2	13	10	10	5	1	41
女性	0	2	3	6	1	1	13
合計	2	15	13	16	6	2	54

(3) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし	計
身障手帳	1級					1	1
	2級						0
	3級						0
	4級以下			2			2
	身障手帳なし		30	15	6	1(精神)	52

*他に精神障害者保健福祉手帳の所持者あり

(4) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

生活介護	計 54 人	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
		2	18	27	6	1

(5) 利用日数

週 5 日	週 4 日	週 3 日	週 2 日	週 1 日
50	1	1	2	0

(6) 活動時間

午前 9 時から受け入れ、午後 4 時終了

(7) 通所方法

自力通所 19 人、施設送迎(送迎車) 24 人、家族付添い 11 人

なお、東京都補助金より交通費の支給を 24 人が受けている。

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 11,773 人(通所サービス日数 244 日)

1 日平均 48.25 人 (121%)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
958	946	1080	991	1043	985
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1024	981	958	896	907	1,004

(単位: 人)

3 活動全般

(1)活動体制

利用者の状況やニーズに応じて 4 つのグループ体制のもと支援を行った。

グループ	作業分担(主担当)	場所
第 1 活動室	受注活動を中心とした室内作業(軽作業、紙作業)、公園清掃、ポステイング	3 階
第 2 活動室	外作業を中心とした活動(ポステイング、アルミ缶回収、公園清掃)、リサイクルポット製作、アパート清掃他	2 階
第 3 活動室	軽作業、和紙づくり、自主製品等の作業(ビーズ、栞づくり)、チラシ配布、他	3 階

(2)活動内容

プログラム	内 容	ねらい
作業プログラム	①軽作業(榮太樓、ボタン組み立て、封入封緘) ②公園清掃 ③アルミ缶回収とリサイクル ④ポステイング(ぱど、テンミリオンハウス月見路、他) ⑤紙作業(紙ちぎり、ラミネートはがし、リサイクル) ⑥パン納品、販売、チラシ配り ⑦高齢者単身生活者への配食ボランティア委託 ⑧地域での作業活動(アパート清掃等)	自立への意欲を高める 人間関係づくり 社会ルールの習得 基本生活習慣の形成 社会への参加、成長意欲を高める
生活プログラム	スポーツ(サッカー、ウォーキング、プール、エクササイズ)、カラオケ、図書館、外出(昼食、喫茶、1 日)、宿泊旅行(全 4 回)	本人の社会参加をすすめる活動。 社会とのつながり、人とのつながりをつくる

(3)工賃規定にもとづいて以下の工賃を支給した。

平成 29 年度工賃支給総額 4,317,850 円 ・一人あたりの月平均工賃 6,633 円

(4)行事等

宿泊旅行については 4 回に分けて実施した(希望者)。

宿泊旅行	① 9/14(木)～9/15(金) ② 9/28(木)～9/29(金) ③ 10/5(木)～10/6(金) ④ 10/19(木)～10/20(金)	①②③山梨県河口湖方面 ④神奈川県横浜市方面
新年と成人を祝う会	1/5(金)	イベントホールにて実施

4 その他の活動

(1)臨床心理士による利用者アセスメント

新期入所の方たちを対象に、適切な支援内容の検討と円滑な日中支援プログラム提供をすべくその機会を設定。

(2)保健・給食

健康管理・健康診断(2 回)、歯科検診、耳鼻科検診

(3)防災(避難)訓練

年 2 回の総合訓練の実施、年 3 回の災害伝言ダイヤル活用訓練を実施した。

(4)家族関連

家族連絡会の開催(年 3 回)、個別面談(1～3 月)、必要に応じての個別面談(随時)

(5)実習の受け入れ

- ・特別支援学校生徒の実習の受け入れ 4 名 (延)47 人
- ・田無特別支援学校 1 年生インターンシップ 1 名(延べ 2 人)
- ・夏休み通所体験 6 人(高等部 2 年生 4 名、1 年生 2 名) (延) 10 人
- ・養成機関等学生の実習の受け入れ 受け入れは 13 名 (延)77 人
(内訳) 社会福祉援助実習／介護体験学生／歯科衛生士専門学校生(延 6 日間)／慈恵医科大学／東社協

(6)ボランティア受け入れ

延べ 154 人(作業活動、外出など)

(7)地域関連機関や団体との連携

- ・武蔵野市地域自立支援協議会の「権利擁護」「当事者」部会に参加

(8)職員研修

- ①施設内研修 「虐待・権利擁護防止研修」(本庄施設長)→6/9(金)実施
「感染症・熱中症対策・手洗い実践」(中野看護師)→10/13(金)実施
「成人期・高齢期の利用者支援」(ベル相談室角田みずゝ臨床心理士)→2/16(金)実施

②法人研修

- ・全体研修、施設長・係長研修、主任研修、3 年目研修、実践発表会
- ・武蔵野市財政援助団体健康福祉四団体合同研修
- ・普通救急救命講習会、安全運転講習会

③武蔵野市関係(延 11 人)

- ・武蔵野市情報セキュリティ研修 / ・武蔵野市歯科医師会主催研修 / ・武蔵野市精神保健福祉研修 / ・武蔵野

市障害者差別解消法講演会／・高次脳機能障害者関係機関連絡会／・通所サービス事業所職員による虐待対応とその役割(高齢者支援課主催)／・口腔ケア研修(障害者福祉課主催)

④外部研修(延 20 人)

・東京都通所活動施設職員研修会研修 / ・東京都通所活動施設職員研修会、東社協知的発達障害部会合同研修会 / ・東社協知的発達部会総会時研修 / ・全国障害者生活支援研究会研究セミナー(サポート研) / ・東社協関係 / ・日本ダウン症協会 / ・社会福祉士養成実習指導者研修 / その他

⑤その他

・「職員の心得、支援方針、運営計画」→4/7(木) / 「インシデントアクシデントの振り返り、リスクマネジメント」→4/25(火) / 「①重度の知的障害とは何か」→8/25(金)、 「②脳機能と行動障害」→11/10(金)、 「③サービスマインドの向上(職員のモチベーションとチーム力アップ)、以上やまびこ主催研修

(9)苦情受け付け状況(口頭)

実績なし



平成 29 年度 指定障害福祉サービス事業
「デイセンター山びこ」(生活介護)事業報告

1 事業運営について

4 月に新規ご利用者が 1 名(田無特別支援学校卒)入所し、10 月には20年間在宅生活をしてこられていた 40 代の女性が入所した(こちらの方は週1度の夕方 16:00 からの短時間からスモールステップで利用中)。また、3 月に男性ご利用者が1名、自宅にて急逝した(ダウン症 35 歳、心不全)。これにより利用者登録は 43 名となった(平成 29 年度末)。

今年度は施設長が安藤(理事長兼)から荒木(前副施設長／障害者支援施設開設準備室担当兼務)に変更となった。女性職員1名の産休・育休(8 月～現在)、長期療養中の女性職員1名の退職(12 月)、臨時職員(男性)の退職(10 月)、男性職員1名の育児休暇(3 月～1 か月間)があった。

事業面では、生活介護 3 事業所の統合・事業強化、また障害者支援施設との連携強化に向け、日中活動や社会参加活動、リスクマネジメント等でプロジェクトチームを立ち上げ検討を始めたほか、一本化された個別支援計画書に基づくケースカンファレンスの開催、支援記録のソフトウェアを一本化など、具体的に取り組んでいる。

また、「地域との協働」については手ごたえが感じられる1年であった。これまでマルシェなどを通して地域とのコミュニケーションを温めてきたが、今年度は地域の方からの要請でイベントでワークショップを実施した(むチューわくわくフェスタ、冬休み子どもワークショップ(クリーンセンター)、まちのマルシェ)。ご利用者が職員と共にインストラクターや接客をするなど、よい社会参加の場を作ることができた。

2 利用者の状況と活動全般

(平成 30 年 3 月 31 日現在、単位：人)

(1) 利用者数 (定員 40 人)

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	23	0	1	22
女性	19	2	0	21
合計	42	2	1	43

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢 35.1 歳)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	計
男性	0	9	6	7	0	22
女性	1	3	9	7	1	21
合計	1	12	15	14	1	43

(3) 障害程度別利用者数

		愛の手帳(療育手帳)				
		1 度	2 度	3 度	4 度	(合計)
身障手帳	1 級					
	2 級		3			3
	3 級		3			3
	4 級以下		1			1
	なし		30	4	2	36
	合計		37	4	2	43

※精神障害者保健福祉手帳の所持者なし。

(4) 障害者総合支援法による障害支援区分の数 (平均 4.8)

区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
		1	12	18	12

(5) 活動時間

午前 9 時 00 分から受入、午後 4 時 00 分終了（送迎利用者は 15 時 30 分送迎車出発）

なお、これに限らず家族からの要請があれば時間前受入、時間延長など柔軟に対応した。

(6) 通所方法

施設送迎 32 人（うちケアホーム 9 名）、家族送迎 7 名、単独通所 4 名。施設送迎以外の方も必要に応じて送迎を行った。

(7) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 8,570 名（通所サービス日数 244 日） 1 日平均 35.1 人

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
718	717	779	706	749	675
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
737	709	719	651	672	738

(8) 活動について

- ・ 5 グループにより、メイン活動（さおり織、缶回収、地域活動、健康など）とフリーデイ（個々に合わせた外出活動）を中心に活動を提供した。
- ・ ものづくり工房 hicobae を拠点として、常設展示のほか、企画展示（空色手ぬぐい展 6/24～30、織り展 1/9～14、hicobae 展 3/7～11）をした他、地域のイベントにも積極的に出店した。三鷹タワーマルシェ（5/27、9/16、11/18）、コピス前マルシェ（7/8-9）、さんかくフェスタ（6/4）、クリーンセンターエコマルシェ（6/11、9/17）、むチューわくわくフェスタ（11/11）、session tokyo50（12/9）、まちのマルシェ（12/20）、子どもワークショップ（12/24-25）また地域のコミュニティセンターや地域の特別支援学校の学園祭での作品販売・ワークショップ等を通じて地域住民と交流した。
- ・ 武蔵野アールブリュット 2017 が開催され、当事業所でも外部講師による「アトリエ BICO」に参加するご利用者を中心に出品し、8 名が入賞した（うち 1 名が審査員特別賞）。
- ・ 宿泊旅行は 3 グループに分かれて石和方面に利用者参加 30 名で実施した。① 7 月 6～7 日（11 名）② 9 月 21～22 日（7 名）③ 10 月 12～13 日（12 名）
- ・ 地域活動として、むさしのあったかまつりに出店・参加した。施設内活動として、ミニコンサート、季節行事として入所式、新年と成人を祝う会、春の日コンサートを実施した。

3 その他の活動

(1) 保健・給食

- ・ 健康管理として、健康診断（2 回）、歯科検診（1 回）、耳鼻科検診（1 回）を実施した。
- ・ 給食について、利用者の状況に合わせた給食を提供した（刻み食、マッシュ食、ペースト食など）。
- ・ 職場内研修として、感染症予防研修、救急搬送時対応研修を実施、また法人の救命講習を受講した。

(2) 防災（避難）訓練

- ・ 年 2 回実施した。
- ・ 大規模災害時を想定し、家族との緊急連絡をとりあう訓練として、災害伝言ダイヤルの体験利用を実施した。

(3) 家族関連

- ・家族会を年に4回開催した(4/26、7/13、10/17、3/14)。
- ・個別面談を実施した(1~2月)ほか、必要に応じ個別面談や相談などを行った。

(4) 実習の受け入れ

- ・特別支援学校生徒の実習の受け入れについては、田無特別支援学級2名、光の村養護学校(高知)から1名を受け入れた。
- ・養成機関等学生の実習の受け入れについては、歯科衛生士専門学校から2名(のべ6日間)、社会福祉士養成校から2名(のべ48日間)、慈恵医大から1名(のべ5日間)を受け入れた。
- ・東社協知的発達部会主催の施設体験研修へ協力し、他法人の支援者2名を受け入れた。

(5) ボランティア受け入れ

- ・今年度も積極的にボランティア234名の受け入れをした。日中活動のサポートの他、ミニコンサートなどの演奏者、読み聞かせボランティア等を受け入れた。

(6) 地域関連機関や団体との連携

- ・活動を兼ねて、けやきコミュニティセンターのガーデニングにボランティア参加した。
- ・あったかまつりに施設として利用者・職員が参加し、販売活動も行った。

(7) 広報

山びこ広報紙「やーっ報」を年3回発行した。

(8) 工賃の支給について

- ・工賃の支給についてはこれまでと同様、支給規定を設け、全ての利用者に毎月支給した。1年間の支払い総額は538,100円であった。

(9) 職員研修

①山びこ内部研修・3事業所合同研修

てんかん研修(4/28)、ケース検討会(5/9、12/7)、運転手添乗員研修(6/8、1/29)、心理研修(7/14、10/10)、音楽療法(9/11、2/26)

②法人研修

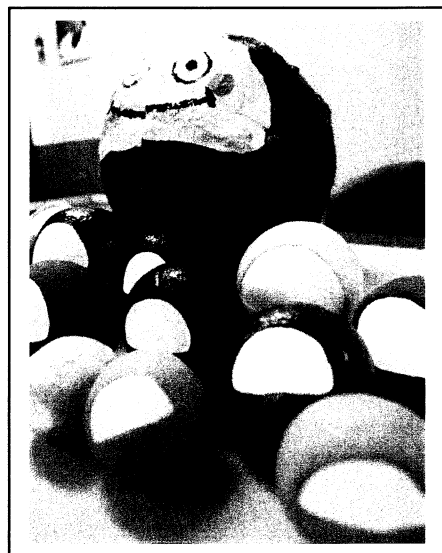
全体説明会／新人職員研修(2名)／2年目職員研修／3年目職員研修／実践発表会／主任研修／OJTリーダー研修(3名3回)

③外部研修

強度行動障害(6/15、8/18)／障害者アート(7/12、8/9)／災害・ボランティア(7/14)／自閉症(8/23)／ビジネスマナー研修(8/25)／口腔ケア(9/26、12/19)／TTAP(1/26)、全国障害者地域生活支援研究会(2/17-18)

4 苦情受付状況

今年度の苦情は0件であった。



平成29年度 指定障害福祉サービス事業
「デイセンターふれあい」(生活介護事業所) 事業報告

1 事業全般について

新たな入所者は、特別支援学校の卒業生が1人、退所者はなかった。

ふれあいの重要な支援課題に沿った3つのプロジェクトチームを中心とした取り組みを継続した。「ケア検討チーム」では介護用リフトについて職員間で手順を確認し使用を軌道に乗せるとともに、新たに立ち上がりリフトと電動昇降台を導入し安全・快適な介護を進めた。また、職員2名が喀痰吸引研修を受講し、利用者の医療的ケアへ関わる実践をスタートさせた。

創作・地域活動を行う「DCFチーム」では地域展開を充実させるとともに、武蔵野アールブリュット 2017に出展し、その中の一つ(チーム作品)が市長賞を受賞した。

利用者の意志決定支援を進める「意思決定支援チーム」では継続検討を行い、講師の援助も得てその意味を追求した。形になる成果はなかったものの、問い続けていくことの重要性を意識する1年であった。

同じ生活介護領域の山びこ・大地・支援施設準備室との連携を強化し、創作活動の協力、職員交流研修、相互の活動紹介、合同職員会議の開催、開業時間や休みの統一化、日常記録ソフトの導入、個別支援計画書式の共通化などを具体的に実施した。

昨年度流行が拡大した感染症は、今年度対策を講じ健康管理に努めた結果防ぐことができた。これに伴い出席率が安定し、コンスタントに日々約20名の利用となった。

2 利用者の状況と活動全般 (平成30年3月31日現在 単位 人)

(1) 利用者数

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	14	1	0	15
女性	14	0	0	14
合計	28	1	0	29

(2) 年齢別利用者数 平均年齢 35.3才

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	1	8	3	3	0	0	0	15
女性	1	3	1	5	4	0	0	14
合計	2	11	4	8	4	0	0	29

(3) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし	計
身障手帳	1級	6	5	0	0	7	18
	2級	1	4	0	2	0	7
	3級	0	0	1	0	1	2
	4級以下	0	1	1	0	0	2
	身障手帳なし	0	0	0	0	0	0
計		7	10	2	2	8	29

*他に精神障害者保健福祉手帳の所持者あり

(4) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	2	3	7	17

(5) 利用日数

週5日	週4日	週3日	週2日	週1日
22	0	5	0	2

(6) 活動時間

午前9時から受け入れ、午後4時終了（送迎ある方は3時30分出発）

(7) 通所方法

施設送迎27人、グループホーム職員送迎1人、家族送迎1人

(8) 年間利用状況

延べ人数 4,981人（通所サービス日数 244日）

1日平均 20.4人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
416	392	463	450	434	409
10月	11月	12月	1月	2月	3月
405	398	409	374	377	454

（単位 人）

(9) 活動について

- ・通常活動は前年度を継続した。2つのグループは活動においては混在する形でおこなった。
- ・外出、外食活動は「1日外出」(2回)と「外食」(2回)とした。
- ・宿泊旅行については4回に分けて実施した。

① 6月15日～16日	河口湖方面
② 6月29日～30日	河口湖方面
③ 9月14日～15日	鴨川方面
④ 9月28日～29日	鴨川方面

・作品展、販売等

① マジェルカ	年間通して吉祥寺マジェルカにて販売
② アールブリュット	アールブリュットに出店、販売
③ DCF WORKS 永谷ビル	7月27日～30日 展示販売、家族の立会協力依頼
④ 中央コミュニティセンター	11月2日～7日 文化祭に参加、展示のみ
⑤ アムリタ食堂	12月7日～18日 展示PR、販売
⑥ hicobaeにて展示販売	3月7日～11日 展示販売。家族の立会協力依頼

・売り上げ配分(工賃)

作品展の売り上げから材料費、運営費を控除した上で、作品制作に関わった利用者に配分金(工賃)として9月と3月の2回に分けて配分した。 合計 284,540円

・山びこ、大地と合同での展示販売を今年度より開始した。

・その他

7月7日～10日 アールブリュットに共同作品を応募し市長賞を受けた。

10/21(土)あったかまつりに作品展示で参加。

季節行事として、夏祭り、クリスマス会、新年と成人を祝う会をおこなった。

地域交流として、地域の店舗、関係機関などに出かけ連携、交流を進めた。

中央幼稚園他、地域の幼児向けワークショップを実施。

3 その他の活動

(1) 保健・給食

- ①機能訓練・理学療法士による機能訓練の実施(週2回)
- ②健康管理・健康診断(2回)、歯科検診、耳鼻科検診
- ③摂食・ペースト状特別食等、摂食しやすいような配慮

(2) 防災(避難)訓練

年2回実施

(3) 家族関連

家族連絡会の開催(5回) 活動予定の説明、施設や法人の状況報告、質疑など。

個別面談(1~2月) 支援計画関係の話し合い、家庭の状況確認 他

(4) 実習の受け入れ

①特別支援学校生徒の実習の受け入れ

都立小平特別支援学校から 3年生1人

②養成機関等学生の実習の受け入れ

社会福祉士資格取得実習 3人 ・教員免許取得介護等体験 7人 他体験・見学の受け入れを行った。

(5) ボランティア受け入れ

ボランティア担当を置き日常の活動や行事で受け入れに努めた。年間延べ 220人

日常の活動手伝い、外出付き添い、他。スターバックスコーヒー店より来所し施設内コーヒー店の開催企画。

(6) 地域関連機関や団体との連携

- ・武蔵野市地域自立支援協議会の「くらす」部会に参加した。
- ・アールブリュット実行委員に参加。
- ・高次脳機能障害関係連絡会の運営委員に継続して加わった。

(7) 職員研修、ほか

①プロジェクトチーム

ケア検討、DCF、意思決定支援の3グループに分かれて実施

②ふれあい内部研修

- ・意思決定支援について ・織物研修 ・感染症対策
- ・自主研修(制度、病気、虐待防止他)の定期開催

③生活介護合同、法人研修

- ・法人、障害者支援部門が主催する全体研修、実践発表会、中堅層・リーダー層、自閉症発達心理、接遇、コミュニティービジネス、ビジネスマナーなどに参加

④外部研修

- ・重症心身障害者の意思決定支援 ・ディスプレイ講座 ・結核予防対策 ・当事者と支援者の関係性
- ・情報セキュリティ ・自閉症のこだわりについて ・サービス管理責任者養成
- ・重症者の痰の吸引等医療的ケア支援者養成研修(特定の者)

(8) 事故報告

6件 車の破損、入浴時着替え台からの転落、職員の活動中、通勤途中の怪我

(9) 苦情受け付け状況

1件 健康診断時に利用者の腕が専門技師の体に触れた

平成 29 年度 地域活動支援センター事業・指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業 「地域生活支援センターびーと」 事業報告

1 事業運営

平成 29 年度は、市の障害者計画・第 5 期障害福祉計画の策定年であるとともに、合わせて法人の中期計画策定も進められた年であった。市の計画では、共生社会の実現を目指すための具体的な施策が検討され、今までよりも更に地域生活を支える議論が活発に行なわれた。同様に、法人の中期計画においても、地域自立生活支援を策定の共通するテーマに掲げ、計画内容の検討が進められた。

地域生活支援の中で、相談支援の占める役割は、今後益々大きくなっていく。平成 29 年度は、古くて新しい課題も含めて、相談支援に求められる内容が多岐にわたり、更に新たな分野での展開が求められた印象を強く受けた 1 年であった。

本人・家族とも年を重ねたことで、認知機能の低下に対する支援が必要となり、それまでの家族との生活を続けることが難しくなったため、支援者側に介護保険の知識や、新たな支援視点についての認識が求められたケース。病気の進行が重篤なものとなり、生命に直結するその先の医療的なケアへの判断を求められた家族を、相談支援の立場から支えることが求められたケース。一般企業の関連施設で就労を続けられる高いスキルを持ちながら、複雑なルールや微妙な人との関係づくりの理解が難しいために、ストレス発散のために散在した金銭的なトラブルで支援を求められたケース。恋愛や結婚生活にあこがれて、皆が普通に行なっているライフイベントを同じように経験したいと切望したが、思うように事が進まずに支援を求められたケース。いくつかのパターンに分かれ新たな相談支援内容の傾向が確認された。

今年度新規事業運営の展開は無かったが、今後も多角的な地域生活支援づくりに努めていきたい。

2 相談支援の状況（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月の実績）

(1) 指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業

総相談件数が、昨年度よりも 450 件増えているのに対して、内訳の中で基本相談・計画相談ともに、過去最高の件数を記録した昨年度より、それぞれ 200 件の減となった。

逆に、専門機関との連携や連絡調整は 760 件以上の増となっている。これは、相談支援の事業展開は、単に累積件数だけでなく、他機関や福祉サービス等の事業所、あるいは地域との協働によって解決を図ってきたことが、象徴的に表れた結果と受け止めている。

(2) 相談受付総数と内訳

総相談受付件数：15,399 件（年度合計）※昨年度は 14,947 件

実質的相談件数：442 人（年度合計）

新規相談者件数：42 人（年度合計）※内、継続して支援している人は 7 人

新規計画相談者件数：26 人（年度合計）

相談区分	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	重複	他	合 計 (相談区分別)
基本相談	928	10	2,902	72	373	10	303	59	4,657
計画相談	373	38	2,122	21	66	0	134	9	2,763
ピアカウンセリング	63	2	76	0	3	0	0	0	144
専門機関	1,417	54	5,054	94	232	19	319	427	7,616
時間外対応	8	0	62	4	2	0	1	142	219
合 計	2,789	104	10,216	191	676	29	757	637	15,399

※総件数が昨年度比の約3%増。障害種別の内訳では、知的障害が約7%の増となった。

(3) 相談受付先

N0	区 分	件数	割合 (%)	N0	区 分	件数	割合 (%)
1	本人からの相談	4,992	32.4	6	親戚からの相談	24	0.2
2	父母からの相談	2,345	15.2	7	関係機関との連携	7,616	49.5
3	配偶者からの相談	12	0.1	8	知人・友人からの相談	34	0.2
4	子からの相談	10	0.1	9	一般市民の相談	133	0.8
5	兄弟からの相談	218	1.4	10	その他(匿名者他)	15	0.1

※昨年度集計値と比較して、本人からの相談が約3.5%、関係機関との連携が約4.5%増加した。

3 地域活動支援センター事業

(1) 参加者数など（平成29年4月～平成30年3月の実績） 合計7,061人

単位：人

区分	わくきん	道場上映会	ダンス	PC	ぴあクラブ	体験塾	キッチン	手芸	女子会
人数	227	311	424	785	375	106	424	475	53
区分	サマーセミナー	あったか	集まろう会	公開セミナー	見学	サポーター	地域	市民向け	その他
人数	67	174	195	115	14	48	1,137	2,034	97

※集計の合計値が、昨年度と比較して約3.8%増加した。

(2) 各事業の概要

- ① わくきん … 「わくわく金曜広場」と利用者が命名。金曜日の夜に集まる当事者の集い
- ② 北町道場・上映会 … 仲間同士の交流をはかり、人とのつきあいを深める体験の場を提供
- ③ 北町ダンス倶楽部 … 障害者スポーツ指導員を講師に迎え、身体を楽しく動かす教室を開催
- ④ パソコン(PC)教室 … 希望や目的に応じたパソコンの体験教室。個別とグループ両方で実施
- ⑤ ぴあクラブ … 土曜日に開催。集団で体験や交流をはかり、社会との接点も持つ活動
- ⑥ 暮らし体験塾 … 生活の中からテーマを絞り、体験を通して身につける活動
- ⑦ みんなのキッチン … 調理体験と会食を通して参加者同士の交流を促進
- ⑧ 手芸教室 … ボランティア講師の指導により思い思いの作品づくりに挑戦
- ⑨ 女子会 … 女性登録者に限定し、女性ならではのテーマ設定により内容を設定
- ⑩ サマーセミナー … 当事者学習会。今年度テーマは“おいしく楽しい夏バテ防止対策”
- ⑪ あったかまつり … 利用者有志の会が駄菓子屋を出店。企画から当日の運営までを体験
- ⑫ 集まろう会 … 一般企業等就労者対象の当事者活動。参加者の話合で「集まろう会」と命名
- ⑬ 公開セミナー … 障害者ご本人やご家族、一般市民などを対象とした公開講座の開催
- ⑭ 施設見学者への対応 … 相談から具体的な支援につなげる一環として通所施設等の見学を支援
- ⑮ サポータークラブ … 学生や主婦等が「びーとサポータークラブ」として活動に参加
- ⑯ 地域との連携 … 福祉の会やボランティア団体など地域社会との連携事業
- ⑰ 市民向け事業 … 障害者総合センター来館者対応やフリースペースの設置など
- ⑱ その他 … 地域活動支援事業全般に対する問い合わせや登録・契約など

(3) 月別の平均来館者数

地域活動支援センター事業関係の1日当たりの月別平均件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数①	20.8	23.0	25.3	18.6	19.6	23.3	28.1	28.6	25.4	23.5	22.1	19.3
人数②	11.9	10.9	16.1	13.9	14.6	17.8	20.8	19.6	18.5	15.3	16.2	14.3

※人数①は「問合せ等受付件数+来館者数」、人数②は「実際の来館者人数」

4 自立支援協議会

自立支援協議会(親会議)委員として、法人から障害統括施設長と共にびーと施設長が出席。

今年度は親会委員が「障害者計画・第5期障害福祉計画」の策定委員を兼務している。

合わせて「相談支援部会」にびーと職員を派遣した。その他の4部会については、例年通り法人の障害児者支援部門全体から職員を選任し、派遣している。

5 市民・関係機関支援者等向け及び、当事者に向けた公開セミナー(学習会企画)

(1) 市民・関係機関支援者等向け公開セミナー

テーマ：知的障害の生活支援と医療 ～配慮したい薬と環境調整のポイント～

講師：鈴木実穂氏(医療法人 慈圭会 すがのクリニック 院長)

会場：武蔵野市役所西棟 811 会議室 受講者人数：115人

(2) 当事者向けサマーセミナー(学習会)

テーマ：知ろう、学ぼう！ お金の使い方 ～上手に使って楽しみを上げよう～

講師：濱倉千晶氏(一般社団法人 ゆうちょ財団 登録講師)

会場：武蔵野障害者総合センターイベントホール、 受講者人数：24人

6 苦情などについて

(1) 苦情受付件数：1件…バス会社からの訴え。

「対象が特定できないが、障害者手帳ではなくヘルプカードを提示して乗車割引を利用しようとするので改善して欲しい。」という内容。法人内各施設に周知し、情報を共有した。

(2) アクシデント報告：1件…ケースの関係者会議の開催報告をメールにて送信。個人名が記載されていないなくても、メールでの送信は不適切との関係機関からの指摘。

7 職員の専門性や資質向上のための取り組みについて(主なものを分野ごとに抜粋して記載)

区分	開催研修テーマ	概要やテーマ等	主催
相談支援研修	相談支援員現任者研修	相談支援専門員資格研修	東京都保健福祉局
	相談支援演習指導者養成研修	相談支援研修演習指導者の養成	都心身障害者センター
	都自立支援協議会セミナー	相談支援の充実のための研修	都自立支援協議会
	計画相談のフォローアップ研修	当事者との面接技法を学ぶ	都内相談支援事業者連絡会
専門分野研修	就労支援研修	医療連携についての事例検討	就労支援ネットワーク会議
	虐待防止研修	障害者虐待の捉え方	武蔵野市障害者福祉課
	在宅医療介護連携推進事業	摂食嚥下機能障害とは	武蔵野市地域支援課

8 その他

(1) 当事者主体の支援 … くらし体験塾、女子会、集まろう会、あったかまつり有志参加、等

(2) 地域との連携・協力 … 地域福祉の会、こいこいの集い、あったかまつり実行委員会、等

(3) 行政との協働・参画 … 在宅医療・介護連携推進協議会「普及・啓発部会」(市)、高次脳機能障害者関係機関連絡会・幹事会(市)、高齢者及び障害者虐待防止連絡会議・障害者差別解消支援地域協議会(市)、相談支援従事者研修検討委員(都)、虐待防止・強度行動障害研修運営委員(都)、等

(4) その他連絡会など … 市内相談支援専門員連絡会、都内知的障害者相談支援事業所連絡会「東京ネットワーク」、相談専門員協会設立準備会発起人会、等

平成29年度 指定障害福祉サービス事業
「ワークセンターけやき」（就労継続A型・B型・就労移行）事業報告

1 事業運営について

ワークセンターけやきは施設の内外を問わず、福祉的就労に加え、一般企業での就労も含め、より上質な就労の機会を障害のある方に提供することを目的として事業を展開してきた。しかし、新たな就職希望者は法人内のジョブアシストいんくるの利用が進み、けやきに求められる機能が変化してきた。また、けやきを構成する利用者層も変化（若年化、知的障害の増加）してきたため、新たな事業所の姿や運営方針の策定が必要となり、正規職員を中心に年間を通して検討・討議を進めてきた。

(1) 就労継続支援A型（雇用）定員 10 名

必要とされる能力を有しながらも企業などで働く機会が得られない方に対して、印刷部門と喫茶部門（パールブーケ）、食堂部門（市役所8階さくらごはん）で雇用契約を結び、合理的配慮ある労働環境を提供した。また、それぞれの障害状況に合わせた他の福祉サービスの相談や移行、企業就労への移行などの支援を行った。

(2) 就労移行支援 定員 10 名（平成 29 年 9 月 30 日で事業休止）

より専門的な就職支援を提供するため、就職希望利用者のジョブアシストいんくるへの移籍の支援を行った。それにより在籍数が 0 名になったため、平成 29 年 9 月で事業を休止した。（再開の予定なし、平成 30 年 9 月で廃止の予定。）

(3) 就労継続支援B型 定員 20 名（平成 29 年 10 月 1 日より定員 30 名）

封入等作業や天然酵母パン製造販売、喫茶パールブーケ運営を行い、福祉的な支援を受けながら働く機会を提供した。高い工賃で多様な働き方ができることから問い合わせや見学は多い。

2 利用者支援について

(1) 利用の状況

今年度は 5 名が新たに利用を開始し、10 名が就職その他で利用を終了（うち 1 名は平成 28 年度中から長欠、平成 29 年 3 月 31 日に遡及して利用終了手続き）し、5 名減となった。ジョブアシストいんくるの就労トレーニングや体験実習に入る方も含めると、けやき利用者+5～10 名の新規利用者を常時受け入れている。

① 利用者数

平成 30 年 3 月 31 日現在（単位：人）

事業別（定員）	前年度末	入所	退所	事業変更	今年度末
就労移行（10）	4	0	3	△1	0
就労継続A型（10）	9	0	4	－	5
就労継続B型（20）	22	5	3	+1	25
計	35	5	10	0	30

② 年齢別利用者数（平均年齢 36.2 歳）

平成 30 年 3 月 31 日現在（単位：人）

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳以上	合計
男性	1	8	3	5	2	1	0	20
女子	0	3	4	2	1	0	0	10
合計	1	11	7	7	3	1	0	30

③ 障害・度数別利用者数

平成 30 年 3 月 31 日現在（単位：人）

		愛の手帳					
		1 度	2 度	3 度	4 度	なし	合計
身障手帳	1 級					3	3
	2 級					2	2
	3 級						
	4 級以下				1	1	2
	なし			7	10	6 (精神)	23
	合計			7	11	12	30

(2) 活動時間

①就労継続支援 A 型 9:00～17:00、週 5 日の勤務時間の内で、精神障害のある方の短時間雇用を含み本人の状況に合わせ雇用環境を提供した。しかし、A 型支援の短時間雇用への社会的な評価の変化もあり、ご本人たちの希望により時間の延長などを行った。

②就労移行支援 10:00～16:00、週 5 日を基本とした。

③就労継続支援 B 型 8:30 (9:30) ～15:30、10:00～17:00 (16:00) の時間内でそれぞれ個別事情により柔軟に設定した。

(3) 利用契約と個別支援計画

利用契約を結び、個別面談を行い、個別支援計画策定とモニタリングを半期毎に行った。

(4) 余暇活動支援

個別趣味活動は、利用者が半数程度に低下したため廃止した。代わりに全体活動を企画し、年末営業最終日に利用者交流会（希望者のみ）を実施した。

(5) 地域交流、貢献事業

①ベーカリーでは青空市や NTT 研究所等に出張販売に行き、積極的に交流を深めた。

②地域自立支援協議会に役員と部会員を派遣した。

③地域福祉の会や地域防災の会へ職員を派遣した。

(6) 保健衛生

①定期健康診断、内科検診等実施した。

②日常の作業時や行事の際の緊急時に備え、定期的に健康服薬調査を実施した。

3 就労支援事業について

(1) 売上について

①印刷・サイン（就労継続 A 型） 52,349,732 円

②封入等作業（就労移行支援） 21,510,961 円

③喫茶ベーカリー（就労継続 B 型） 23,959,327 円

④食堂（就労継続 A 型） 22,067,110 円

合計 119,887,130 円

・全部門について収支改善計画を検討・実施したが、どの部門も売上が伸び悩み、昨年度比は部門単位で 89.6～99.7%、全体で 95.3%であった。

・印刷部門は、平成 30 年 2 月までは昨年度累計額を超えていたが、3 月売上が 250 万ほど不足した。また売上に占める割合の変化から、長年使用していたサインの製作機材について更新を徐々に止めているため、サイン部門の売上高が減少傾向にある。

・封入等作業部門は、官公庁の入札対応を再開したが市場価格が下落傾向にあり、年間で予定していた業務が思うように獲得できなかった。また、新規利用者はこの部門から利用を始めることが多く、工賃支給額が他部門と比較して増加傾向にある。

・ベーカリー部門は、店舗営業時間縮小の影響もあり、売上が 280 万円減った。人員も安定せず、臨時・嘱託職員の入・退職が相次ぎ、他部門との連携で営業を維持した。変動費率は改善努力の成果が見えてきているので、次期は売上規模を拡大していく。

・「さくらごはん」は、売上が通年で昨年度より悪い。収支状況も厳しく、月間収支でプラスになった月は無く、抜本的な改善が必要な状況である。

(2) 印刷・サイン部門（西久保オフィス）

ポスター、名刺・封筒、チラシ・パンフレット、冊子・広報物等の印刷、名簿データ管理、Tシャツプリントなどの作業を行った。優先調達法制定に伴い、国の機関や中央官庁からの受注がいくつかあった。例年同様に多摩地区周辺の官公署需要への営業活動を積極的に行っている。市場性予測の結果、年賀印刷やTシャツプリントは積極的な販促はせず、事業を縮小している。

(3) 封入等作業部門（作業センター）

封入封緘作業、委託業務など、周辺区市の通知書の封入発送業務を中心に受注した。また近隣企業から、ノベルティグッズの通年業務を受注した。

ビジネス上の身だしなみや挨拶、人間関係、ふるまいの在り方が浸透するよう取り組んだ。

作業を実施するにあたり、それを細分化・構造化し、利用者が各自の課題に向けて作業に参加できるような環境を構築している。

ジョブアシストいんくるの作業研修として共同で作業にあたり、全体として作業品質の向上とキャパシティ確保を実現している。

(4) 喫茶ベーカリー部門

臨時職員の退職が続き人員確保が難航したため、営業時間を変更し、焼きたてパンが店頭に並ぶ11時から開店、さくらごはんと同じ15時までの営業とした。

(5) 食堂部門

「さくらごはん」の事業を開始して4年が経過し、認知度の定着とともに、集客力がやや横ばいになりつつある。収支改善のため、メニューの見直しや近隣企業等への広報戦略など手掛け始めている。

(6) 賃金・工賃について

①就労継続支援A型（雇用）

利用者と雇用契約を締結し、最低賃金以上を支給した。最低賃金の見直しにより、工賃を改定している。

②就労継続支援B型

最低賃金時給の3分の1相当額（320円）を平均支給額の目安として、作業評価に基づき工賃を支給した。工賃評価項目を見直し、就労指導により結びつく内容とした。

④ 就労移行支援

最低賃金時給の3分の1（311円）を訓練手当として支給した。

(7) 就職支援・定着支援における取り組み

本年度就職者数1名（就労継続支援A型）

4. サービス向上のための取り組み

(1) 職員研修

就労支援技術の研修を中心に、法人内外の職員研修を実施した。

(2) 苦情受付状況 0件



パールブーケ

平成 29 年度 指定障害福祉サービス事業
「ジョブアシストいんくる」(就労移行) 事業報告

1. 事業運営について

ジョブアシストいんくるは、精神障害者、発達障害者、軽度知的障害者などを対象として、就職を志す人を支え、企業就労を実現し、継続するための支援を行ってきた。

(1) 利用の状況 就労移行支援 定員 20 名

① 平成 29 年度末登録者数 (単位：人)

事業別 (定員)	平成 28 年度末	新規利用開始	年度内利用終了	平成 29 年度末
就労移行 (20)	19	20	15 (内 14 名就職)	24

② 年齢別利用者数 (平均年齢 32.6 歳) 利用終了時もしくは年度末時点 (単位：人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳以上	合計
男性	1	17	6	6	1	0	0	31
女性	1	1	3	3	0	0	0	8
合計	2	18	9	9	1	0	0	39

③ 障害・度数別利用者数 利用終了時もしくは年度末時点 (単位：人)

級/度	身体	知的	精神	なし	計
1	1	0	0	—	1
2	0	0	9	—	9
3	3	1	11	—	15
4	0	11	—	—	11
5	0	—	—	—	0
6	0	—	—	—	0
なし	—	—	—	3	3
計	4	12	20	3	39

平成 29 年度の 1 年間で 20 人が新たに利用を開始している。新規利用者は、その多くが関係機関からの紹介によるものであり、前年度までの就職実績の積み上げとプログラムなどの取り組みによる利用者の成長が周辺支援機関に評価された結果だと思われる。受け入れに当たっては個別に見学に対応し、体験を 3 日程度設定することを基本にしたため、ほぼ毎週見学があり、月に 3 人以上体験を設定し、毎月 1～3 人ほどが新規に利用を開始するという状況が続いた。利用者数については、上期から就職者がコンスタントに出ていたため、20 人程度で推移していたが、下期から年度末にかけて新規利用者が増え、現在の人数に至っている。

平成 29 年度利用者は累計で 39 名になり、平均年齢は 32.6 歳であった (利用終了時、年度末に利用継続の場合はその時点まで)。

精神障害の手帳を取得している方が 20 名で半数以上を占めた。また、身体、知的、精神の各手帳種別にまたがって、発達障害の診断、もしくは傾向のある方が 13 名に達した。

(2) 活動時間

月曜日から金曜日、8:30～17:00 の間で、各人の状況やプログラムの選択に合わせて柔軟な時間設定と利用日でカリキュラムを作成した。

(3) 利用契約と個別支援計画

利用契約を結び、個別面談を月 2 回以上実施し、本人の意向に沿って個別支援計画を策定し、3 か月ごとにモニタリングを行った。

(4) 訓練手当について

就職に向けてのプログラムとしての意義から、作業実習に関わる時間については、東京都最低賃金の 3 分の 1 相当額を訓練手当として支給した。(年間平均で時間あたり 316 円を支給)

(5) 生活困窮者就労準備支援事業

武蔵野市から生活困窮者自立支援事業の一部である就労準備支援事業と被保護者就労準備支援事業を受託して支援を一体的に実施した。

2. 就職支援の取り組み

(1) 支援プログラムについて

就労トレーニング・就活プログラム・パーソナルアシストを個人別利用カリキュラムにより実施した。また、個別に選択や組み合わせのアレンジを行うにあたり、利用者の理解を助けるために、個別面談やプログラム見学などを行った。

① 就労トレーニング（作業）

ジョブローテーション：「封入等作業」を基本作業としつつも、適性に合わせて幅広い作業種に携わる機会を関係機関と連携して提供した。（主な作業内容：封入封緘作業、清掃業務、図書館受託作業、厨房調理補助作業）

企業体験実習：民間企業の協力で職場の見学・体験などを多数行った。東京しごと財団の体験実習も積極的に利用し、企業実習の機会を数多く確保した。

② 就活プログラム

ビジネススキルアップ（ビジネスマナー）、オフィスワーク（事務スキル）、メモのとり方、セルフラーニング（自習機会）など就職活動に必要な知識、技術獲得の機会や、グループワーク、グループラーニングなど利用者同士でのコミュニケーションスキルの向上を図る機会を設定した。

③ パーソナルアシスト（企業就労への支援）

履歴書作成や面接訓練などをきめ細かく実施し効果を上げた。

求職活動や就職面接、雇用前実習、トライアル雇用に同行し、就職活動をサポートした。

(2) 就職者の状況

平成 29 年度は 14 名が企業等に就職した（その他内定者 3 人）。手帳種別では精神の手帳を持つ方が半数以上を占める。また、全体のうち 5 名が発達障害の診断、もしくは傾向があると言われている方である。

就職先の業務内容は事務系が半数以上を占めている。

就業地域は市内近郊、多摩地域など通勤至便な地域が多くなっている。

平成 29 年度 就職者の状況

（単位：人）

手帳種別	人数	業務内容	人数	就業場所	人数
精神	8	事務系	9	市内近隣	4
知的	4	作業系	1	都心部	2
身体	1	清掃系	0	多摩地域	7
なし	1	店舗系	2	区部西部	1
計	14	厨房系	2		
(うち発達障害は 5 名)				計	14
		計	14		

主な就職先は以下の通り。

医療法人沖縄徳洲会武蔵野徳洲会病院、株式会社ベネッセビジネスメイト、オリックス生命株式会社、株式会社ニューアート、特定医療法人愛育会久米川病院、アフラック・ハートフル・サービス株式会社、公益財団法人武蔵野市生涯学習振興事業団、株式会社ユニクロ、株式会社ホンダファイナンス、森久保薬品株式会社、松屋フーズ株式会社 他。

平成 29 年度の離職者はのべ 2 名（同一人物、いずれも 3 日勤務）。

開設以来（4 年 8 カ月）では 44 人が就職し、のべ 7 人が残念ながら離職に至っている。

(3) 地域開拓と連携における取り組み

① 企業との連携

多数の民間企業に職場見学や職場体験実習の受け入れに協力いただいた。

② 医療機関との連携

利用者がデイケア利用や通院をしている山田病院、長谷川病院、吉祥寺病院、武蔵野中央病院、など医療機関との間で、病状確認、ケースカンファレンスやデイケアなどのサービスの併用などを行った。

③ 就労支援機関との連携

平成 29 年度に新規利用者の多くが近隣の市区の障害者就労支援センターからの紹介であった。そして就職後半年を目安に定着支援を行った後、状況を見て各地域の就労支援センターに返していくことをスキームとした。そのため各地域の就労支援センターとは恒常的に情報交換をし、就職後の定着支援の移行を行うことを心がけた。また、ハローワーク三鷹とも情報交換などを心がけていった。

④ 教育機関との連携

亜細亜大学カウンセリングセンターと連携し、2 名の方が卒業後にいんくる利用に結びついている。

法人内外の就労継続 B 型施設の利用にあたって、特別支援学校在学中に直 B アセスメントを都合 4 ケース実施し、特別支援学校との連携を深めた。

(4) 定着支援

就職者については、半年を目安に定期訪問や面談などの定着支援を行った後、状況を見て各地域の就労支援センターにつなげていったが、就職後 2 年程度で新たに課題が生じてくることもあり、就労支援センターと共同で定着支援に当たることもあった。

それとは別に年 4 回、就職者の会を開催し、いんくる開設当初に就職した方のその後の状況確認を行っている。

(5) 訪問型職場適応援助者助成金事業

昨年度に引き継ぎ、本年度も障害者職業センターからの資格認定法人として職場適応援助者を配置し、1 ケースであったが障害者職業センター多摩支所と共同支援を実施した。ただし、職場適応援助者の配置が兼務であるため、助成金の請求は行わなかった。

3. 生活困窮者就労準備支援事業

自立相談を請け負う福祉公社や生活福祉課と毎月定期的にケースカンファレンスを行い、連携関係を構築した。平成 29 年度は生活保護受給者対象の被保護者就労準備支援と併せて 9 ケースを実施した。個別の相談による支援が中心ではあるが、継続的に PC 講座や PC 入力などのプログラムに参加する方も増えてきた。また、中間就労を念頭に置いて高齢者支援事業所の見学を行っている。

4. サービス向上のための取り組み

(1) 職員研修

就労支援の支援技術向上のため、以下の研修に職員を派遣した。

- ・就業支援基礎研修
- ・就業支援実践研修
- ・職場適応援助者支援スキル向上研修
- ・生活困窮者支援事業実施者向け研修

(2) 苦情受付状況 0 件

(3) 人権擁護虐待防止への取り組み

法人全体の人権擁護虐待防止委員会の設置に加え、施設単位でも自主チェックリストの実施などの取り組みを行った。

(4) 保健衛生

定期健康診断、内科検診等を実施した。

(5) 大規模災害時対応

大規模災害時を想定し施設としても初動マニュアルを整備し、利用者の安否確認などの対応を職員間で確認した。

また、地震を想定した避難訓練を実施した。

1. 全体動向

(1) 事業所の移転にともなう機能の拡大について

10月2日に事業所が現在の場所に移転をした。移転にともなって、平日の開所時間を拡大し、朝9時より開所し、企業の始業時間に即対応ができる体制とした。閉所時間はこれまで通り19時とし、仕事帰りに面談ができる時間を確保している。開所時間の拡大にともない職員の勤務体制を変更し、一ヵ月交代で2名ずつ早番対応をとっている。

また、移転にともなって、ホームページをリニューアルした。

(2) 重点課題について

①支援体制の強化、職員資質の向上について

帝京大学元永拓郎教授をスーパーバイザーとして、全6回の事例検討会を開催した。6回のうち1回は就労支援ネットワーク会議にて拡大事例検討会として開催し、市内クリニック院長、病院のワーカー、ハローワークの精神障害者雇用トータルサポーターなども参加し、医療と福祉、それぞれの視点を学ぶ機会となった。

外部研修には、東京都福祉保健局、東京障害者職業センター、多摩総合精神保健福祉センターなどが主催する研修を中心に、必要な職員が必要な研修に参加した。

また、生育歴、生活状況、医療状況の整理が困難な相談が増加しているため、初回面談時から聞き取り内容についてより詳細な本人像を把握するため、個人情報データベースの様式を見直した。

②中小企業を中心とした雇用先、実習先開拓と企業支援について

2月23日、地域自立支援協議会はたらく部会との共催で、武蔵野商工会議所において、障害者雇用を検討している企業担当者を主な対象とした「障害者雇用企業応援セミナー」を開催した。当日は21名の方が参加。(うち企業からは8社9名)。

③当事者同士の交流、当事者発信を通じた地域への障害者理解促進について

11月10日、三鷹産業プラザにおいて、市民の方、企業や学校関係者、福祉関係者を主な対象として武蔵野市・三鷹市・ハローワーク三鷹共催の「障がい者の就労を考えるつどい」を開催した。当日は175名参加。

また、発達障害のある方を対象とした自助会（あいるピアクラブ）を偶数月の第4土曜日の午前中、「安心が約束された場所で、気兼ねなく話し合える機会を提供する」ということをコンセプトで開催した。

(3) 登録者、支援の状況について(概要)

・今年度新規登録者数は37名。手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が全体の65%を占めている。障害種別では精神障害が43%と最も多く、次いで多いのが発達障害で24%である。

・新規就職件数は36件。手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が全体の78%を占める。労働時間別では「週30時間以上」が67%と最も多く、「週20～29時間」は22%であった。障害者雇用としてカウントされない「週20時間未満」は11%だが、

これらはほぼクローズでの就労である。クローズ就労が全体の 25% を占めている。年齢別では「40～49 歳」が 39% と最も多く、40 歳以上の就職者は約 50% を占めている。雇用形態別では契約社員、パート・アルバイトなどの「正規以外」が 83% と大半を占め、「正規」での就職者はほぼクローズによるものである。

・離職件数は 19 件。手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が 69% ともっとも多い。

採用から 1 年未満での離職者が 42% と高い割合を占めている。

・武蔵野市障害者庁舎内実習を 10 月と 1 月の 2 期で、それぞれ 2 週間の期間で実施した。うち 1 コースを週 20 時間勤務を想定した時間設定にし、差別化をはかって実施した。4 名のうち 2 名は実習終了後、就労につながっている。

・今年度より、障害のある大学 4 年生を登録対象とした。成蹊大学、亜細亜大学、武蔵野大学の 3 校を訪問し、学生相談室、キャリア支援室等の職員の方々に対してあいの事業説明を実施した。今後、大学との連携を深めていくため、武蔵野市障害者就労支援ネットワーク会議等への参加を継続して呼び掛けている。今年度は大学、および大学生からの就労相談はなかった。

2. 登録者全体の状況（全 303 名の内訳）

手帳別人数		年代別人数		状況別人数	
手帳種別	人数	年代別	人数	状況	人数
身体障害	23	18～20 歳	16	在職	192
知的障害	108	21～29 歳	62	求職(在宅)	38
精神障害	165	30～39 歳	79	求職(施設)	42
なし	7	40～49 歳	97	その他	31
計	303	50～59 歳	38	計	303
		60 歳以上	11		
		計	303		

3. 就職者の状況

就職者数の推移（手帳種別 H24～）

手帳種別	H24	H25	H26	H27	H28	H29
身体障害	3	1	5	1	0	1
知的障害	12	13	12	14	6	6
精神障害	16	21	27	28	18	29
手帳なし	1	0	0	0	0	0
計	32	35	44	43	24	36

組織形態別内訳		雇用形態別内訳	
一般	29 人	正規雇用	7 人
特例子会社	7 人	正規以外	29 人
第三セクター	0 人	在宅	0 人
その他	0 人	その他	0 人
合計	36 人	合計	36 人
業種別内訳		企業規模別内訳	
建設業	1 人	大企業	22 人
製造業	0 人	中小企業	14 人
電気・ガス業	0 人	合計	36 人
情報通信業	8 人	※中小企業とは、下記の資本金・従業員数のいずれかを満たしている法人又は個人事業主。	
運輸業	2 人	業種	資本金
卸売・小売業	2 人	製造業等（ソフトウェア、情報処理等）	従業員
金融・保険業	3 人	3 億円以下	300 人以下 ※1
不動産業	0 人	卸売業	1 億円以下
飲酒店・宿泊業	4 人	小売業	5 千万円以下
医療・福祉	6 人	サービス業	5 千万円以下
教育・学習支援	2 人	医療法人 ※3	100 人以下 ※2
公官庁	2 人	※1 ゴム製品製造業（自動車又は航空機用タイヤ及びチューブ製造業並びに工業用ベルト製造業を除く。）は、500 人以下	
その他サービス業	6 人	※2 旅館業は 200 人以下	
合計	36 人	※3 医療法人及び偉業を主たる事業とする社会福祉法人、財団法人、社団法人	

4. 支援の状況

支援内容別件数

合計（件）

職業相談（就労全般）	4,111
就職準備支援（適性、能力の把握、就労意欲や職業能力の向上等）	204
職場開拓件数（独自の職場開拓）	29
職場実習（通勤援助、職務分析等）	76
職場定着支援（通勤練習）	10
職場定着支援（業務支援）	53
職場定着支援（企業依頼）	60
職場定着支援（定期訪問）	310
離職支援（諸手続き、調整等）	61
日常生活支援（出勤準備、通勤生活リズムの調整等）	219
不安や悩みの解消（対人関係相談、福祉サービス利用援助等）	65
豊かな社会生活を築くための支援（余暇の過ごし方、金銭の使い方等）	9
将来設計相談（自活、結婚、出産等、自己決定、自己選択に関する相談）	44

以上

平成 29 年度 指定障害福祉サービス事業
「武蔵野福祉作業所」(就労移行・就労継続 B 型・生活介護)事業報告

1. 事業運営について

年度内に 3 名の入所者を迎えたが、途中退所者もあり定員割れの状態が続いている。年齢の分布をみると 60 歳以上の利用者が、全体の 15% 近くになっており、本来の就労支援のみならず、高齢利用者の体調管理や安全確保のための支援の必要性が高まっている。世帯支援や生活支援についても関係機関との連携の中で継続して行った。

売り上げ実績では、給食の売り上げが伸びた半面、店舗売り上げが下降してきていることを受け、食品事業 P T を立ち上げ業績改善のための取り組みを行った。

2. 利用者の状況と活動全般

(1) 利用者数 平成 29 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

事業別 (定員)	前年度末	入所	事業間異動 での増減	退所	今年度末
就労移行 (6)	7	1	△1	0	7
就労継続 B 型(64)	60	2	2	2	62
生活介護 (10)	8	0	△1	0	7
計	75	3	0	2	76

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢 39.4 歳) 平成 29 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳 以上	合計
男性	1	11	16	7	5	1	5	46
女子	0	9	4	11	1	0	5	30
合計	1	20	20	18	6	1	10	76

(3) 障害・度数別利用者数 平成 29 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

		愛の手帳					
		1 度	2 度	3 度	4 度	なし	合計
身 障 手 帳	1 級	0	2	0	1	1	4
	2 級	0	2	0	0	1	2
	3 級	0	1	2	0	0	3
	4 級以下	0	0	2	1	1	3
	なし	0	19	34	6	3(精神)	64
	合計	0	24	38	8	6	76

(4) 障害者自立支援法による障害支援区分の数

未確定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
27	2	8	26	10	3	0	76

(5) 活動時間

基本的な活動時間は 9:00 開始とし、終了時間はグループによって 16:00 を基準に前後 15 分の中で設定している。時間構成は、4 コマの作業時間の区切りで 15 分休憩と昼休みを入れている。利用者個々の要望に合わせ、利用時間、利用日数を決めるようにしている。

(6) グループワークプログラム

少人数グループプログラム3種を実施。

WG ミュージック&コミュニケーション (第2・第3週 水曜日)	会話と歌を組み合わせ、言葉でのコミュニケーションの方法を経験的に学ぶ。自己肯定感を高め、参加者のエンパワメントに繋げた。
WG 夢の扉 (健康体操) (毎週木曜日)	音楽に合わせてゆっくり体を動かすプログラムを実施。新年会で発表の場を設け、意欲的に取り組める内容とした。
WG チャレンジ (第1・第2火曜日)	社会生活力向上に向けた少人数学習を行った。グループホーム見学等、体験を通しての学びも実施した。

(7) ワークショッププログラム (毎週木曜日)

作業以外の支援プログラムとして、専門講師による芸術活動を行った。武蔵野アールブリュットやあったかまつりへの作品展示参加を行った。

(8) 作業活動と工賃

作業活動は、受注事業と食品事業の二本柱である。受注事業は、大口の取引が終了したことから売り上げが減少に転じた。食品事業は、給食事業が好調であったが、反面やさい食堂七福の売り上げが伸びず、全体の売上としては昨年度比96%であった。

売上実績表 (単位: 円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28合計	3,315,799	2,989,845	4,177,026	4,296,105	2,945,364	3,255,216	4,311,325	3,816,337	3,361,520	2,882,662	3,039,422	3,468,248	41,858,869
H29合計	3,327,839	3,236,680	4,175,077	3,391,791	3,109,662	3,062,229	3,641,940	3,623,536	3,444,714	2,845,661	3,045,015	3,445,326	40,349,470

工賃支給実績 (多機能合計の月平均) は、平成28年度12,268円に対し12,418円となった。

(9) クラブ活動

平成29年度も継続して少人数で年3回行った。種類は、「青空」「カラオケ」「ビデオ鑑賞」「スイーツ」とし、各回参加者の打合せによって内容を決定した。尚、クラブ活動に参加しない選択肢も設け、作業に従事できるように配慮した。

(10) 年間行事

施設で企画する行事は以下の通りに行った。バスハイク、宿泊旅行については、安全に配慮し、運営した。新年会は、従来通り、作業所全体での新年および成人を祝う行事とした。

① 日帰りバスハイク 埼玉 (鉄道博物館) 方面

5月12日 (金) 利用者23名 職員8名 ボランティア2名
5月26日 (金) 利用者22名 職員7名 ボランティア2名
6月9日 (金) 利用者21名 職員7名 ボランティア2名 計94名

② 宿泊旅行 横浜・青梅方面

9月7日 (木) ~ 8日 (金) 利用者 23名 職員8名 ボランティア1名
9月21日 (木) ~ 22日 (金) 利用者 24名 職員9名 ボランティア1名
10月5日 (木) ~ 6日 (金) 利用者 20名 職員8名 ボランティア1名 計95名

③ 10月21日 (土) 地域交流事業として「むさしのあったかまつり」で、やさい食堂七福のお総菜販売、作品展示のブースを出展した。ご利用者は自由参加とし、会場内で適宜サポートを行った。

④ 新年会 1月4日 (木)

新年会と成人を祝う会、ボランティアのステージ

利用者 67 名、招待ボランティア 6 名、出演ボランティア 5 名、職員 15 名 計 93 名

(11) 自治会

利用者の中から、会長 1 名、副会長 1 名、書記 2 名、会計 2 名を選挙により選出し、その 6 名からなる役員会を中心に本人活動の支援を行った。主に年 4 回の自治会全体会の企画運営の支援を行った。

3. その他の活動

(1) 保護者連絡会

奇数月を原則として施設より利用者家族に向けた情報伝達のを設け、福祉政策、行政の動向、地域の動向、施設の動向等を情報発信する機会とした。

(2) 広報紙

「むさしのだより」を毎月最終月曜日を基準に、利用者向けに発行した。

(3) 保健衛生

看護師による日常看護としての利用者の健康管理と嘱託医（内科・精神科）による健康相談を毎月 5 回、健康診断、歯科検診を実施した。また、感染症対策、緊急時対応マニュアルの改訂、緊急医療対応シミュレーション研修を行った。

(4) 給食

法人の栄養士が献立を作成し、就労支援事業として職員と利用者で調理し、給食を提供している。主食と主菜の選択食をそれぞれ毎月 1 回行った。

(5) 総合防災訓練

消防（避難）訓練など年間 3 回実施した。東日本大震災を教訓とした災害時の行動フローチャートを活用した避難訓練、Eメールを利用したご家庭への連絡訓練を別途実施した。

4. 職員研修

(1) 職場内研修・法人研修

職場内研修では権利擁護や制度について講師を招いて研修を行った。

また、就労系の事業所合同での研修も実施した。

(2) 施設外研修

外部の研修へ職員を派遣し、参加者は職員に研修内容を講義し共有を図った。

5. 苦情受付状況

苦情は、一般・利用者ともに年間を通して 0 件。

6. 第三者評価

平成 27 年度に第三者評価を受審している。評価機関：株式会社日本生活介護。

7. 年間実績一覧

多機能型・定員	80 名	ボランティア活動延人数	48 名
		見学者数 (一般見学)	102 名
利用者延数 (年間)	15, 547 名	見学者数 (利用に向けての見学)	4 名
サービス提供日数 (年間)	242 日	実習生 (一般・学生等) 延人数	28 名
1 日平均	64 名	事前の体験利用者数	84 名
		苦情件数	0 件
		事故件数	4 件

平成 29 年度 指定障害福祉サービス事業
「ワークステージりぷる」(就労継続 B 型)事業報告

1. 事業運営について

新年度を迎え新卒者 2 名が入所。昨年度末退所した 1 名の方が再び利用する事となり、20 名の定員を満たした。開設して 4 年目、基本方針を見直し、はたらく力を支援すると共に社会生活力支援についても計画的に取り組む必要があると考え、試み的に実施した。

作業支援では利用者増により、全体的な作業速度が上がり受注量が増え、利用者にとっては多種多様な作業機会に繋がった。

あいると協力のもと 1 名の方が 10 日間の企業実習を行った。

活動時間は引き続き 17 時までとし、作業量の多い時は 30 分延長した。

支給工賃総額は昨年度比、増加した。

2. 利用者の状況と活動全般

(1) 利用者数

平成 30 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

事業別 (定員)	前年度末	入所	退所	今年度末
就労継続 B 型(20)	17	3	0	20

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢 35.0 歳)

平成 30 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	合計
男性	1	3	4	3	1	12
女子	1	1	4	1	1	8
合計	2	4	8	4	2	20

(3) 障害・度数別利用者数

平成 30 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

		愛の手帳					合計
		1 度	2 度	3 度	4 度	なし	
身障手帳	1 級	—	—	—	—	—	—
	2 級	—	—	—	—	—	—
	3 級	—	—	—	1	—	1
	4 級以下	—	—	—	—	—	—
	なし	—	8	5	6	—	19
	合計	—	8	5	7	—	20

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数

未確定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
5	1	4	7	3			20

(5) 活動時間

基本的なサービス提供時間は 9:00 から 17:00。一日 6.5 時間の就労時間を保証するとともに、作業量に合わせて 17:30 までの残業も行った。ご利用者の意向を確認し、残業の可否や終了時刻 (16:00~17:00 の間のサービス利用時間) の確認を併せて行い、選択できるように配慮した。

(6) 作業支援と工賃

作業支援は、ダイレクトメールの封入・封緘を中心に精力的に取り組んだ。引き続き作業現場を構造的に整備しながら、利用者が自立して動ける環境を整えた。利用者への関わりにおいては「肯定的に伝える」ことを常に意識し、利用者のモチベーションが上がる環境づくりを行った。

年度内に2回、工賃評価の見直しを行った。

売上実績表（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
28年度	590	664	775	774	738	810	747	790	901	739	892	1,258	9,678
29年度	818	778	910	819	814	873	672	700	712	623	850	913	9,480

工賃支給実績（月平均）は32,481円（小数点以下切捨）となり、平成28年度と比べると2,355円低下、時給換算では平均284円となり、目標としていた東京都最低賃金の1/3以上には到達できなかった。主な要因としては受注仕事の単価が安く、その結果売り上げが横這いになったという事と利用者が増えた事で一人当たりの工賃支給額が低下した。

(7) 生活支援

① 当番制で実施

- ・朝のミーティング後、当番が前に出て「体操」と「挨拶・報告・連絡・相談」のフレーズを皆で発生練習した。
- ・掃除…施設内、近隣の清掃を月毎の交代制で行った。
- ・給食当番…給食の食数計算、食具の準備など。
- ・デリバリー…納品、資材の引き取りを、職員と、基本、利用者2名が交替で出掛けた。

② 自由選択の日

昨年度に引き続き、毎週金曜日の昼食を自由選択の日とした。

③ 通所

通所の安定を目的として関係機関とのケース会議や新たなサービス利用支援を行い、通所率の向上につなげた。

(8) 年間行事

基本的に行事はご利用者の意向を踏まえるなど、利用者の発案・企画を大切にした。

今年度は一日外出、旅行、忘年会、新年会が提案され実施された。

① 一日外出 小金井公園 6月16日（金）

サンリオピューロランド 6月23日（金）

ディズニーランド 7月14日（金）

② 宿泊旅行 熱海・伊豆方面 9月28日（木）～29日（金）

③ 忘年会 12月28日(水) りぷる内で行った。

④ 新年会 1月5日(金) 市役所さくらごはんで新年会を行った。

3. その他の活動 *

(1) 広報紙

「りぷる通信」(A4,1ページ) 毎月1日に、利用者向けに発行した。

(2) 保健衛生

利用者の健康診断(年2回)、歯科検診(武蔵野市在住者)を行った。武蔵野福祉作業所の看護師によるバックアップ体制を継続した。

(3) 給食

武蔵野福祉作業所で調理した給食をお弁当箱に盛り付けて提供した。

(4) 総合防災訓練

北町ほっと館の合同訓練を含み、消防(避難)訓練など年間2回実施した。

4. 職員研修

- ・職員が外部の研修に参加した。
- ・法人内就労支援部門の研修に参加した。また他事業所の職員を受け入れた。
- ・職場内で職員が講師となって学ぶ機会を設けた。

5. 苦情受付状況

家族より

- ・職員の対応について、何気ない声かけが本人にはきつく感じる、また他の利用者が注意を受ける時にもそれを聞いて動揺するので、注意して欲しいということがあった。りぷるでの作業支援のとりくみ方を説明すると共に、そのように受けとめられないよう配慮する旨をお伝えした。

取り引き先より

- ・ダイレクトメールの作業でミスがあり、発注元の担当者が来所。現場の作業環境の視察及び、作業の管理やリスクマネジメントについて相互に確認した。

6. サービス提供記録

前日のサービス提供について、翌日の朝のミーティング時に利用者を確認、押印をして頂くようにしている。

7. 年間実績一覧

就労継続支援B型・定員	20名	見学者数(一般見学)	5名
		見学者数(利用に向けての見学)	8名
利用者延数(年間)	4,492名	実習生(一般・学生等)延人数	0名
サービス提供日数(年間)	244日	事前の体験利用者数	55名
1日平均	18.4名	苦情件数	3件
		事故件数	0件

平成29年度 みどりのこども館 児童発達支援事業
「こども発達支援室ウィズ」 事業報告

1 施設の運営について

当施設は武蔵野市より委託を受け(指定管理)、児童福祉法の児童発達支援事業として運営している。1日の定員は10名、対象児は3歳児～5歳児である。この事業の他に、今年度から新たに学齢期の肢体不自由児を対象とした放課後事業「つばさ」を実施した。「生きていく力の土台をはぐくむ」という理念のもとに、造形・感覚・運動・ふれあい・音楽などのプログラムを通して、それぞれの発達の状態に応じて、個も集団もどちらも大切に活動を行った。

今年度は子どもの登録が年間で16名、平均利用数が10.7名/日となり稼働率100%を超えた。登録児の状況(異動)は10月に1名が幼稚園入園のため、12月に1名が市外転出のため退園した。年度末には年長児3名が卒園、年少児2名が幼稚園等へ転園した。その結果、9名が次年度も継続利用となる。平成30年度は年少児7名が新たに加わり4月1日現在で登録が16名となるが、定員超過となるため年少児については週3日の利用とさせていただいた。3年連続で利用調整がかかることとなる。利用希望という地域のニーズにどのように応えていくかが課題である。今後も継続して支援の質を高め、保護者や関係者と協力しながらより良い療育を目指して取り組んで行きたい。また、今年度第三者評価を受診した。

2 通園を利用した子どもの概況 年間を通した状況(単位:人)

年齢別利用児数(29年3月31日)

	3歳児(年少)	4歳児(年中)	5歳児(年長)	合 計
男児	3	1	3	7
女児	6	3	0	9
合計	9	4	3	16

障害程度別利用児数

		愛 の 手 帳					
		1 度	2 度	3 度	4 度	等級不明 (申請中も含む)	なし
身 障 手 帳	1 級	1	1			1	
	2 級						
	3 級		1				
	4 級以下						
	等級不明 (申請中も含む)		1				
	なし			4	2		5
てんかん2名、脳性麻痺1名、染色体異常3名							

3 療育内容(通園関係)

(1)活動時間

通常の活動は年少から年長を通して、9:30～14:00 までで実施した。

(2)活動内容

個別支援目標に沿って、着脱や排泄・食事などの基本的生活習慣の獲得や体操・朝の会・設定活動などの小集団での活動を通した発達支援を行った。設定活動では散歩・創作・感触遊び・運動・クッキング・誕生会・季節行事・幼稚園、保育園交流などを行った。

(3)音楽療法

引き続き講師を導入して実施した。通園児のニーズに合わせて、1～5 名の目的別小集団に分けて行った。その結果一人一人のきめ細かい対応が行えた。

(4)動作法プログラム

引き続き講師を導入して実施した。通園児のニーズに合わせて、3 名程度の目的別小集団に分けて行った。保護者の方が一緒に参加し、身体の使い方の相談も行なっている。

(5)食事

給食は総合センターで調理し、館に搬送し配膳(盛り付け)をしている。内容は出来るだけ本人の食べやすいものにし、楽しい食事場面を作る中で、食事の仕方や偏食の改善を行ってきた。また、摂食や嚥下の難しい児には、介助を行ったり特別食で対応したりした。

(6)送迎

家庭の事情に配慮しながら、施設独自での送迎を行った。この1年間に在籍した 16 名が送迎車による送迎を利用した。送迎車 2 台で市内全域の送迎を実施した。

(7)保護者との関り

- ・保護者会を年に 4 回、個人面談を各 3 回開催し、通園児全員の家庭訪問も実施した。なお、親同士の関係作りや経験交流のために、親の会の集いを設定した(8 回行われた)。
- ・家族参観日を年に 2 回土曜日に実施した。その他にオープンデーとして自由に参加できる活動を 8 月～2 月まで月 1 回設定した。また、設定した日以外でも自由に保護者が見学できるようにした。
- ・家族向け広報紙「ういずきつず」を年 2 回と卒業文集「えがお」を発行した。

4 行事等(通園関係)

行事名	月日	行 事 内 容
入園式	4/7	入園式・保護者会
保育園・幼稚園との交流		千川保育園、武蔵野中央幼稚園、みやま幼稚園、北町保育園 各園1～3 回 吉祥寺保育園(年4回交流し、近隣の公園で合流したりウィズで遊んだりした)
親子遠足	10/5	昭和記念公園(立川)
家族参観日	6/10 12/16	保育参観・父親懇談会 お楽しみ会
季節行事		あそぼうデー、ミニコンサート、おもちつき
誕生会		該当月の誕生祝い
園外保育		おもちゃのぐるりん、体育館プレイルーム 乗り物体験、中央図書館、パールブーケなど
プール		屋外プール(7 月～8 月)
卒園式・お別れ会	3/28	卒園式(就学 3 人、転園 2 人)
避難訓練		こども館全体訓練2回 災害時伝言ダイヤル訓練 2 期間
保護者会		年に 4 回実施(4 月、7 月、12 月、3 月)
個別面談		年に 3 回実施(5.6 月、10.11 月、2.3 月)
入園説明会	3/17	事業説明・利用契約・インテークなどを個別に行う

5 「つばさ」の概況 平成 29 年 3 月 31 日現在 ・保護者会を年 2 回開催した。

	登録人数	実施回数	参加延べ人数
つばさ	9 人	29 回	84 人

武蔵野市内在住で小学校 1 年生から高校 3 年生までの肢体不自由児を対象に放課後や夏休みの

余暇支援を行う。10/25(水)の活動で、NPO法人プレシャスネットの招待により吉祥寺ハロウウィンフェスタ2017へ利用児5名が参加した。

6 その他の事業

(1) 同窓会(ウイズ卒園児、在園の経験のある小1～小3までの親子)

8/5(土)10時～12時 卒園・在園経験児14名。保護者16名、兄弟5名参加

(2) ボランティア・実習生・インターンシップ

ボランティアは、1年間で延べ197名の参加があった。実習生は、保育士実習1名(延べ11日)、PTOT実習見学者2名。社会福祉士実習生の見学9名、東社協学生インターンシップ3名(1人5日間)、マイナビインターンシップ学生4名等を受け入れた。

(3) 保健・衛生

歯科健診を年2回(在園児1人につき、1回)、尿検査、耳鼻科健診、内科健診を年各1回実施した。
また、職員向けに歯科巡回相談が年に2回あった。(多摩口腔リハより指導医が来所した。)

(4) 避難訓練

館全体で2回、火災時の避難訓練を実施した。また災害時の情報伝達訓練として災害時伝言ダイヤルの利用訓練を2期間実施した。

(5) 職員研修:

① 内部研修(事業所・法人)

動作法まとめ/音楽療法まとめ/初級2年目研修/臨床心理士によるスーパーバイズフィードバック/実践発表会/法人全体研修/小児救急研修/デイセンター山びこ研修 等

② 外部研修

都立小児研修/他事業所・学校見学/東社協知的発達障害者部会研修/多摩保健所研修/府中療育センター研修/武蔵野市研修 等

7 他機関との連携・協力

- ・教育委員会:通園児の実態把握表の作成・提出、個別行動観察の受け入れ
- ・他療育機関:並行利用児のカンファレンス、児発事業者連絡会への参加
- ・子ども家庭支援センター:ケースについての連絡、協力
- ・特別支援学校:卒園児に係るカンファレンス、就学先訪問、学校からの見学受け入れ等
- ・図書館読み聞かせの会事業への協力
- ・きょうだい交流会の開催(8/26、2/25)

8 苦情受付状況

- ・件数 1件

【平成29年度 実績】

*見学者数(一般見学)はみどりのこども館全体の見学者を含む

定員	10人	ボランティア活動延人数	197人
登録利用者数(年間)	16人	見学者数(一般見学)	79人
利用者延数	2,570人	見学者数(利用に向けての見学)	40人
利用延日数	240日	実習生(一般・学生等)数	10人
1日平均通園児数	10.7人	事前の体験利用者数	17人
		アクシデント・車両トラブル件数	77件

平成29年度 みどりのこども館 地域療育推進事業
「地域療育相談室 ハビット」事業報告

1 事業運営について

(新規事業)

- ・市内特別支援学級への巡回相談事業は、学校教員に向けた言語聴覚士と作業療法士による相談事業であり、専任の担当者を増員して実施した。今後も継続して実施する。
- ・武蔵野市や他の法人との共催で行ってきたきょうだい交流会は、4年目の今年度よりハビットの事業として実施。これまでと同様に他の法人と連携して運営を継続している。
- ・利便性向上のために利用者向けのブログを開設し、事業所からの告知や近隣のイベント情報等を掲載した。

(継続事業)

- ・相談件数、特に計画相談支援利用者が増加し続けておりモニタリング件数が昨年度比から1.4倍となった。また初回相談申込も増え待機日数が昨年度と比較して大きく増加した。
- ・市内児童発達支援事業の新設の影響で親子通園利用者は減少しているが、複数の課題を抱える家庭が多く、関係機関との連携を取り多方面からの支援を進めている。

(今後の方向性)

- ・相談件数、業務量いずれも年々増大を続けている。事業所内での業務効率化を図り対応してきたが、相談の待機日数を減少させることが出来ずに利用者には相談が開始されない不安など精神的な負担を負わせる状況となってしまう。今後は相談支援の質を維持しつつより一層の効率化と関係機関との調整を進めて改善を図ると同時に、みどりのこども館の児童発達支援センター化の動向を踏まえて対応策を検討していく。

2 事業内容

開館日 月～金 月 1回土曜日に相談を実施

受付時間 9:00～17:00

(1) 療育相談事業

- ・対象 0～18歳までの子どもとその保護者
- ・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・保育士
相談員(非常勤)・心理相談員(非常勤)・言語聴覚士(非常勤)・医師(非常勤)
- ・内容 心身の発達に心配のある子どもに対する家庭での支援・生活指導・関係機関との調整、補装具や住環境の調整など、専門医師(整形外科医・児童精神医・小児科医)による家庭療育に関する相談。

(2) 親子通園事業

- ・対象 発達障害等の未就学児とその保護者
- ・スタッフ 保育士・社会福祉士・臨床心理士・心理相談員(非常勤)・保育補助員(非常勤)
- ・内容 親子の通園を基本として、子どもの年齢や発達課題に合わせたクラスで数人(6～8人)のグループ活動をする。保護者とスタッフ間で子ども状態像や発達課題、対応の仕方を共有し、子どもが集団生活に必要なスキルを習得する場とする。
- ・通園クラスの対象児(7クラス)
 - ①つばみクラス:0歳児。先天性障害・周産期トラブルにより発達に障害のある児。
 - ②たんぽぽクラス:1～2歳児。主に運動発達に遅れや障害のある児。
 - ③なのはなクラス:1歳児。さくらクラス待機グループ。

- ④さくらクラス:2 歳児。精神発達に遅れや障害がある児。運動発達の遅れが精神発達によるもの。
 ⑤いちごクラス:3 歳児。発達障害の可能性が疑われる児。軽度の知的発達の遅れも含む。
 ⑥みかんクラス:4 歳児。発達障害の可能性が疑われる児。軽度の知的発達の遅れも含む。
 ⑦りんごクラス:5 歳児。発達障害の可能性が疑われる児。軽度の知的発達の遅れも含む。

(3)施設訪問事業

- ・内容 市内の幼稚園・保育園等の子ども施設職員・利用者への療育的支援
- ・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・臨床心理士
- ・訪問先 ・市内及び近隣市の保育園、幼稚園
 ・特別支援学級
 ・0123 吉祥寺、0123 はらっぱ、おもちゃのぐるりん

(4)その他

- ・発達健康診査(障害者福祉課事業)に参加
- ・研修事業 市内保育園・幼稚園の保育士・教諭を対象に実施(全9回中5回実施)
 「ハビット地域支援講習会 発達基礎コース」
- ・きょうだい交流会(障害児をきょうだいに持つ子どもの交流会)実施

3 苦情受付状況

- ・件数 なし

【平成 29年度 実績数】ハビット

療育相談	新規相談	290 件	親子通園 クラス名	グルー プ数	登録 者数	実施 回数	延参加組数 (見学者含)
	受理面接(初回面接)	241 件	つぼみ	0	0	0	0
	継続相談	2063 件	たんぽぽ	1	3	15	34
発達支援	PT 指導	件	さくら	2	13	29	99
	OT 指導	件	いちご	2	9	20	63
施設訪問	保育園・幼稚園	131 件	みかん	2	11	32	120
	0123・ぐるりん	20 件	りんご	1	3	15	35
	その他	88 件	ぶどう				
発達健診	15 回実施	176 件	なのはな	0	0	0	0
母子保健	3～4 ヶ月児健診 回	件	合計	8	39	111	351
医療相談	18 回実施	56 件	計画相談・モニタリングに関する相談			1041 件	
計画相談 計画作成		123 件	モニタリング作成			916 件	

平成 29 年度 みどりのこども館 地域開放型事業 「おもちゃのぐるりん」事業報告

1 事業運営について

武蔵野市内在住の親子が自由に来館し、遊べる場を提供している。子どもの遊び場であり、保護者の交流の場となっている。常駐の職員がいることで気軽に子育ての相談ができ、また必要に応じて「地域療育相談室ハビット」と連携し、療育相談につなげている。

今年度もおもちゃ病院・手作りおもちゃの会・ワークショップやおもちゃの貸出し事業を実施するとともに、庭のある環境を生かし、自然に触れる体験として畑での種まきや収穫体験を実施した。また、館内にある「こども発達支援室ウィズ」「療育相談室ハビット」と連携し、子育て講座やこども館全体のおまつりを一緒に行った。

コミセン親子ひろばや保育園で行われているあかちゃんのひろばにおもちゃを 20 点程度持参する出張ぐるりんは、基本月 1 回実施としているが、保育園からの依頼も増えてきている。また、桜堤児童館や子育てフェスティバルでは、ぐるりんコーナーを設置するなど地域の中でも活躍の場が広がってきている。

また、29 年度は新規事業として「ファースト・トイをママの手で」を年 4 回開催した(妊娠 6 ヶ月の方から生後 3～5 ヶ月の子どもと母親対象)。人気のおもちゃが作れることや、同じくらいの月齢のお子さんを知り合うことができ、参加者から好評であった。(なお、この事業の運営は、武蔵野市子ども協会に委託している)

2 事業内容

- ・事業 子どもと保護者がおもちゃで自由に楽しく遊べる場の提供
- ・対象者 市内在住の未就学児と保護者
- ・利用料 無料
- ・開館日 火～土の週 5 日間(日・月・祝日は休み)
- ・開館時 10:00～16:00 ランチタイム 12:00～13:30(実施期間は 4・5・6 月、9・10・11 月の 6 か月)
- ・スタッフ 子育て支援員 正規職員 2 名 嘱託職員 1 名 アルバイト数名
 - * 支援員は保育士・幼稚園教諭いずれかの免許取得者
- ・おもちゃの在庫数 約 300 種類あり季節ごとのテーマに合わせて常時 70～80 個を用意している。

○その他の実施事業

手作りおもちゃの会・季節の手作りおもちゃや工作の催し・貸出し事業・おもちゃ病院(おもちゃ修理)・畑での体験
外部講師によるワークショップ・ボランティアによるおはなしひろばおよび催し
ハビット×ぐるりん(育児講習)・みどりのこども館看護師と話そう!・らびっとひろば

3 活動実績

【平成 29 年度 実績数】

- ・平成 29 年度 開館日数 250 日(前年度 223 日)・・・前年度は改修工事中休業(11/15-12/17)
- ・利用児総数 6,931 人(前年度 5,829 人)
- ・平均利用児童数 1 日: 27.7 人(前年度 26.1 人)

年齢別	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	その他	合計
利用児数	1,358	1,412	1,524	1,154	740	479	162	102	6,931

*その他は小学生の兄弟姉妹

4 年間実施行事

手作りおもちゃの会								
4月 5日間	59人	7月 5日間	100人	10月 5日間	105人	1月 5日間	97人	
5月 5日間	55人	8月 4日間	69人	11月 5日間	87人	2月 5日間	70人	
6月 5日間	92人	9月 5日間	80人	12月 5日間	99人	3月 5日間	60人	

ハビット×ぐるりん(ハビット職員によるミニ講座と座談会)定員 10人			
5月 18日	ハイハイ、たっち、歩く、基本の動きはどうして大事?(理学療法士)		7人
9月 28日	子どものイヤイヤどうしてる?(臨床心理士)		7人
1月 25日	ハサミやえんぴつ、スプーンやお箸が上手に使えるようになるには?(作業療法士)		4人

こども館看護師と話そう(子育てに関するミニ講座と座談会)		
6月 8日	季節のライフ&ケア ～乳幼児の健康と夏の過ごし方～	2人
11月 7日	季節のライフ&ケア ～乳幼児の健康と冬の過ごし方～	6人

その他のイベント					
4月	こいのぼり作り	26人	10月	お月見の催し	15人
	野菜を植えよう(2回)	6人		あやとりひもを編もう(2回)	9人
	母の日のプレゼント作り	17人		そらまめの種まき	2人
				ハロウィンのリース作り	25人
5月	野菜を収穫しよう	6人	11月	あやとりひもを編もう(2回)	9人
	母の日のプレゼント作り	5人		ファースト・トイをママの手で	9人
6月	父の日のプレゼント作り	53人	12月	あやとりひもを編もう(2回)	12人
	野菜を収穫しよう(2回)	25人		ダイコンの収穫	8人
	ファースト・トイをママの手で	6人		にんじんの収穫	13人
				クリスマスのお楽しみ(製作)	34人
7月	七夕の催し	13人	1月	あやとりひもを編もう	8人
	ジャム作り	9人		けん玉名人がやってくる	14人
8月	にんじんの種まき	5人	2月	コマ名人がやってくる	14人
				鬼のボーリング作り	18人
9月	敬老の日のプレゼント作り(2回)	100人	3月	ファースト・トイをママの手で	8人
	牛乳パックのいす作り	9人			
	ファースト・トイをママの手で	8人		おひなさま作り	32人

- ・おもちゃ病院 (原則第4土曜日に開催) 実施回数:11回(12月なし)修理おもちゃ数:248件
おもちゃ病院協会のドクター養成講座に参加したおもちゃドクター6名が、壊れたおもちゃを無償で修理(材料費のみ個人負担)。個人・施設からの修理依頼を受付。
- ・おはなしひろば (毎月1回) 実施回数:12回 参加人数:91人
偶数月:大野田福祉の会 奇数月:紙ふうせんのグループ(けやきコミセンを拠点に活動)
- ・おもちゃの貸出し (毎週水曜日及び第1土曜日) 貸出し数:858件 登録者 220人(小学生0人)
子ども一人につきぐるりんの貸出しおもちゃ 107点の中から1点、1週間の貸出し
- ・出張ぐるりん (基本月1回開催) 実施回数:16回 参加人数:240人
この他桜堤児童館まつり、子育てフェスティバルにぐるりんコーナーとして参加。
- ・らびっとひろば (年3回開催) 参加人数:8人
ハビット利用児を対象とした遊び場で、28年度は年6回実施していたが、ハビットとの話し合いの結果、29年度は年3回(11・1・3月)に変更。
- ・みどりのこども館あそぼうデー 7月14日実施
- ・ぐるりんだよりの発行 偶数月に1,000部発行 保育園等市内施設に設置:配布箇所68施設
- ・ホームページやツイッターによる情報提供 ホームページ随時更新(30年4月にリニューアル)
29年度 ツイート数:169 ツイート フォロワー:166人(30年3月末現在)

平成29年度 居住支援ユニット 「リエゾン」 事業報告

【居住支援・事業報告】

「やはたハウス」

(共同生活援助・共同生活介護)

「グルーホームRENGA」

(重度身体障害者グループホーム)

1 事業運営について

現在、やはたハウス(共同生活援助)(4か所、6ユニット)、グルーホームRENGA(重度身体障害者グループホーム)の合計定員は43名(体験枠を除く)。企業就労している方、福祉的就労の方、生活介護、介護保険のデイサービスに通う方など多様なご利用者のそれぞれ異なる暮らしを主体性・個別性を尊重し、24時間、365日の生活を支えた。

今年度は、どのグループホームでも年末年始もグループホームで過ごす方(合計8名)が出て365日の支援体制が必要となった。ご家族の高齢化による介護力の低下や、ご家族が介護施設に入所してしまったり、ご家族の急病による入院などにより、急な週末利用が多くなったり、ホームで365日生活することになる方が年々増えてきている。どのユニットでも365日体制で生活を支援する必要が出て、リエゾン全体で職員が協力し合って支援体制を組んだ。

ご家族による通院付添いが困難になってきた方、家族に病状を理解していただくために支援が必要になってきた方が更に増え、通院先を探したり通院に付き添ったりする事例が増えた。付き添いの支援が過重になってきているために、今後ご利用者の健康と生活を維持するためには居宅介護や訪問介護のサービスを利用するなど工夫が必要な時になっている。

RENGAでは居宅介護事業や介護保険関係事業、訪問医療、訪問看護等の医療関係事業所など多数の事業所と連携して地域生活を支援した。関係事業者が増えて情報を共有し共通認識を持つことが難しい場合もあったが、関係者会議などで粘り強く話し合いを継続し、協力関係を向上させた。また、胃ろうなど医療的な対応が必要になったご利用者に対して看護師を配置してホームでの生活を継続していただいた。

今年度も、ご利用者自身の生活力の向上の為に取り組みを継続した。居室の掃除・整理整頓、洗濯、金銭の使い方など個別の状況に応じて支援を進めた。

ユニットの支援力の向上の為に、ケース会議を定期的実施したり、ユニットの支援課題に応じた研修を実施するなどした。重度身体障害者が暮らすグループホームの運営の改善、生活支援のスキルアップを目指し「身体障害者グループホーム連絡会」の活動に継続して参加した。また、東京都社会福祉協議会グループホームネットワーク委員会幹事会に職員を派遣するとともにネットワーク委員会が主催する研修に積極的に職員を参加させた。

2 利用者の状況(きたまちハウス1の体験枠は含めない)

(1) ユニットと入居状況 (平成30年3月31日現在 入居者合計 43名)

ユニット名	やはたハウス	せきまえハウス	きたまちハウス1	きたまちハウス2
入居者数	男5名	女6名	男7名	女7名

ユニット名	くすの木1	くすの木2
入居者数	男4名	男9名

重度身体障害者グループホームRENGA
女性4名、男性1名

(2) 利用者数 (単位：人)

	前年度末	入所	退所	年度末
男	26			26
女	16	1		17
合計	42	1		43

(3) 年齢別利用者数 平均年齢 42.3歳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男		2	7	12	4	1		26
女			5	9	2		1	17
合計		2	12	21	6	1	1	43

(4) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし
身障手帳	1級	2	2			3
	2級		1		1	
	3級					
	4級以下		1			
	身障手帳なし		15	10	8	
計		2	19	10	9	3

(5) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
	10	10	10	7	6	43

(6) 利用日

年末年始を含めて通年利用

(7) 通所方法

本人が一人で通勤・通所している方22名、通所施設の送迎を受けている方21名

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 12,314人 (利用サービス日数 365日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1,044	1,009	1,089	1,032	1,041	993
10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,054	997	1,024	982	967	1,082

3 活動全般

- ・1年を通してホームで過ごせるように支援体制を組み、年末年始も含めて年間を通じて入居者の利用があった。
- ・各 GH での誕生会。また、ユニットによりスペシャルディナーの開催、クリスマス会、一日外出などを実施した。

4 その他の活動

(1) 保健・食事

- ① 健康管理 : 健康診断 (2回)、歯科検診、インフルエンザワクチンの集団接種

- ② 食事 : 七福の配食サービスを利用するとともに、ご利用者に好みに応じたお楽しみメニューの日なども実施した。
- ③ 通院 : 必要に応じて通院の付き添いを実施した。

(2) 家族関係

- ・家族面談を実施した。また、家族の健康状態のなどに対応した緊急利用に多数応えた。

(3) 見学者

障害当事者・家族、特別支援学校在校生の家族グループ、地域の（障害児の）親のグループ、他の法人によるグループホーム職員、社会福祉士実習生など多数受け入れた。

(4) 制度利用の支援

居宅介護（2人）、居宅介護（移動）（1人）、訪問介護（2人）、訪問看護（4人）、訪問リハビリ（介護保険：2人）、訪問マッサージ（1人）、介護機器（介護保険：2人）、訪問診療（3人）、訪問歯科（1人）などの制度利用のために、関係の居宅ヘルパー事業者、訪問看護ステーションなど多くの事業者と連携して支援した。

(5) 地域との関わり

千川地域社協と桜野地域社協の運営委員、千川地域防災会の事務局員として地域の活動に参加した。グループホームの周辺の清掃、雪かきなどを引き続き実施した。

(6) 消防機器工事の実施

ご利用者の重度化に伴い、きたまちハウスにおいて自動火災報知設備と自動通報設備の連動工事を行った。

【ショートステイ事業, 報告】

「なごみの家」

（武蔵野市障害者（児）ショートステイ事業）

1、事業運営について

今年度は、総利用時間が前年に比べて減少した。傾向として、定期利用ができる放課後等デイサービスの増加により、定期利用を想定していない武蔵野市障害者（児）ショートステイ事業の利用傾向に変化が出てきている可能性があるが、長期的な利用傾向を見ていく中で判断していきたい。

高校卒業生の継続利用人数が増加しているとともに、就学前児童の新規登録が毎月のように相次いでいる。一方で成人利用者においては、ご利用者の重度化、ご家族の介護疲れへの対応が必要な事例が増えており、なごみの家の役割が変化しつつあることが感じられる

29年度も、ご家族の病気入院や家庭での療養のために特別に配慮が必要な方については障害者福祉課、相談支援事業所や子ども家庭支援センターとも連携してご家族のニーズをとらえ必要な支援を行った。

家族の病気などの緊急利用には24時間・365日の体制で対応できるように、緊急の受付窓口を設けるとともに、年末年始も対応できるよう職員が待機した。今年度、年末年始の緊急利用はなかった。

今年度も、医療対応の必要な方には看護師を配置して安心してご利用いただいた。リエゾン内の職員の効率的運用と、登録スタッフ、法人職員からの応援を得てできるだけ多くの利用に応えた。

2、利用者の状況（平成29年度）

(1)利用者数

年間利用者数 146人

月間平均利用人数 55.4人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
60	58	62	58	51	63
10月	11月	12月	1月	2月	3月
57	51	54	40	52	59

（単位：人）（年間利用者数は重複があるので月間の利用者数の合計とはならない）

(2)年間利用状況

年間合計 7,423 時間 (利用サービス日数 359日) 日平均20.6時間

4月	5月	6月	7月	8月	9月
734	625	640	754	580	690
10月	11月	12月	1月	2月	3月
542	536	576	438	661	647

(単位: 時間)

(3)年間利用件数

年間合計 1,143 件 月平均95.25件

4月	5月	6月	7月	8月	9月
119	96	110	103	87	108
10月	11月	12月	1月	2月	3月
91	84	87	66	97	95

(単位: 件)

(4)宿泊利用

年間合計 242泊 月平均20.1泊

4月	5月	6月	7月	8月	9月
22	21	20	26	16	21
10月	11月	12月	1月	2月	3月
15	18	20	13	27	23

(単位: 泊)

3、その他の活動

(1) 食事・マッシュ状特別食等、摂食しやすいような配慮をした。

(2) 職員の健康管理

職員の健康診断を年2回実施、毎月検便を実施、インフルエンザワクチンを接種し、ご利用者が健康的に利用できるように職員の健康管理を心がけた。

(3) 地域関連機関や団体との連携

地域の市民による活動である「千川地域福祉推進協議会」に参加した。

「きたまちハウス」 (短期入所)

【チャレンジ自立生活事業】

1、事業運営について

平成28年度も、きたまちハウス1、きたまちハウス2のそれぞれ1室を活用してチャレンジ自立生活事業を継続した。

ご利用者の状況に適した宿泊数を設定して宿泊体験、共同生活を体験することで自立心や人間関係での成長をしていただける機会を提供した。

2、実績

利用人数 25名、利用宿泊数 244泊

【リエゾン共通事項】 事業報告

1 職員研修

(1) 法人研修

法人が主催する全体研修、臨時職員研修や実践発表会に参加した。

(2) 外部研修

- ・東京都、東社協（生活寮・グループホーム等ネットワーク委員会）の実施する世話人研修に参加した。

（「ご利用者の高齢化と介護保険利用について」「みとり支援について」「サテライト型グループホームについて」など）

(3) 内部研修

- ・「成年後見人制度について」「認知症サポーター講習」「ADHDについて」「接遇」など
- ・毎月の支援報告から1テーマをまとめて共有した。

2 地域関連機関や団体との連携

地域の市民による活動である「千川地域福祉推進協議会」「桜野地域社協」に運営委員として、「千川地域防災会」の事務局員として参加した。

3 防災訓練

拠点ごとに複数回、避難訓練を実施した。

平成 29 年度 武蔵野市障害者福祉センター事業報告

1、施設の運営の概要

平成 28 年度までは同施設内で障害者福祉サービス（専門相談、自立訓練、生活介護）を「生活リハビリサポートすばる（以下、すばると言う）」として行ってきたが、平成 29 年度からは市の指定管理を受託し、施設管理、障害者講習会、通所移送事業などを含め一体的に運営することとなった。これにより、事業運営の効率化が図られるとともに、すばるの事業の実施主体は市であるという位置付けが明確となった。現在、自立訓練、生活介護、専門相談における登録相談などの利用者は、市の障害者福祉課長や基幹相談支援センター職員を含む「リハビリ検討会議」において決定することとしているが、このように市との連携が緊密になった結果、市からのニーズが直接的に反映されるため専門相談や自立訓練の利用者が徐々に増加している。一方、生活介護については利用者の障害の重度化、高齢化を背景に長期欠席者が増えたため、やや減少となっているものの、自立訓練終了者が生活介護に移行することを考慮すると、今後増加が見込まれる。

2、事業別報告

（1）管理部門

①部屋貸し（地下会議室、調理実習室、印刷室、録音室、視聴覚室）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数（件）	39	43	49	38	42	44	38	34	36	38	36	30	467
延べ人数（人）	201	306	431	258	217	230	257	202	247	232	317	317	3,215

②通所移送事業

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ人数（人）	515	515	600	560	505	509	513	525	502	437	519	529	6229

③障害者講習会（エアロビ、健康マージャン、太極拳、将棋、うた、卓球、体操、書道他）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人数	50	51	50	48	0	69	49	49	34	44	38	14	496
延べ人数（人）	70	82	87	84	0	118	83	63	56	72	64	19	798

④医療相談

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数（件）	5	6	8	8	5	7	7	7	6	6	7	9	81

⑤音楽療法 (5月からの月、土 各30回)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ人数(人)	0	41	44	53	14	42	48	35	28	28	42	43	418

⑥行事・地域活動等

- ・センター講演会 3月3日(土) 参加者46名 講師 石田由香理氏
視覚障害当事者と考える共生社会とは～フィリピン、イギリスでの体験を通して～
- ・障害者福祉センター運営協議会
第1回 平成29年8月8日(火) 平成28年度障害者福祉センター実績報告について
第2回 平成30年3月23日(金) 平成30年度事業計画について
- ・安全対策連絡会議 2回(9月20日、3月6日)
- ・避難訓練 2回年(9月26日、3月14日)
- ・千川福祉祭り(9月16日、車椅子体験)
- ・千川地区社協、千川地域防災会、サロン千川(年3回 職員派遣)
- ・東部フェスティバル(9月3日、車椅子体験)
- ・四小福祉の会(毎月第1金曜日)
- ・あったかまつり(10月21日、実行委員会 各4月から10月の月1回)

⑦職員研修職員研修

- ・高次脳機能障害支援研修
- ・福祉用具、機器研修
- ・住環境整備研修
- ・虐待防止研修
- ・相談支援に関する研修
- ・その他

⑧その他の運営管理

○苦情受付状況 5件

- ・送迎時の歩行車取扱いに関する利用者からの苦情(4月5日)
- ・送迎時の車椅子の取扱いに関する利用者からの苦情(4月5日)
- ・送迎時の介護方法に関する利用者からの苦情(4月20日)
- ・送迎時の待ち時間に関する利用者と家族からの苦情(7月24日)
- ・空調の全館工事にとまなう活動環境に関する利用者と家族からの苦情(11月21日)

○事故発生件数 1件

- ・センター駐車場内における送迎車と利用者の接触事故(平成29年12月27日)

(2) 相談部門

①専門相談

ア) リハビリ相談 (住宅改修、補装具等 電話、来所、訪問など) (延べ人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
専門相談	47	66	70	91	60	54	60	53	53	30	40	49	673

- ・心のバリアフリー啓発事業の講師派遣
- ・地域支え合いポイント講師派遣

イ) ゆいっと相談件数 (高次脳機能障害) (延べ人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談 (来所・電話・訪問)	131	110	149	128	114	157	151	108	99	101	102	94	1444
上記内サロン	9	9	12	12	6	11	0	6	3	3	5	4	80

- ・高次脳機能障害関係機関連絡会 年2回 事務局機能としての活動
- ・高次脳機能障害関係機関連絡会運営委員会 年4回
- ・北多摩南部医療圏 高次脳機能障害者支援普及事業
- ・東京都総合高次脳機能障害研究会

ウ) 視覚障害専門相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談 (来所・電話・訪問)	86	90	112	139	85	84	90	79	96	84	98	78	1121
内点字教室	14	22	14	16	0	5	12	9	20	13	20	16	161
内視覚障害サロン	1	3	3	3	0	0	0	3	0	0	0	0	13

- ・ホームヘルパー講習会講師 (福祉公社) / ガイドヘルパー講習 (市) 講師
- ・武蔵野市バリアフリー工事 (点字ブロック等の敷設) への助言
- ・心のバリアフリー啓発事業への講師派遣

②特定計画相談

- ・実績

職員	契約	計画書作成	モニタリング
視覚	43	66	58
高次脳 他	14	12	35
身体	12	21	32

(3) 通所部門

①自立（機能）訓練（通所および訪問によるリハビリテーションサービス）

午後1時～4時

毎週月～金 1日の定員 10名

・実績

（延べ人数）

平均 5.3／日

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
自立 訓練	通所	69	70	80	118	94	73	78	81	108	108	113	121	1113
	訪問	3	5	3	4	0	0	1	8	10	5	5	15	59
市単（通所）		8	16	20	0	0	0	12	14	12	0	9	22	113
計		80	91	103	122	94	73	91	103	130	113	127	158	1285

・利用者の状況

（性別／年齢）

平成30年3月31日

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	1	1	2	3	5	0	12
女	0	0	1	2	4	0	0	7
計	0	1	2	4	7	5	0	19

（障害手帳の内容）

障害名	肢体障害	視覚障害	重複（視覚・精神）	重複（肢体・精神）	重複（肢体・知的）	精神	なし
人数	15	1	0	0	1	0	2

②生活介護（通所デイサービス）午前10時～午後4時 毎週月～金 1日の定員 10名

・実績

平均 6.1人／日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	133	141	145	130	156	126	123	116	109	87	96	117	1479
市単独	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	133	142	145	130	156	126	123	116	109	87	96	117	1480

・利用者の状況

平成30年3月31日

（性別／年齢）

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	0	2	1	4	2	0	9
女	0	1	1	0	1	0	0	3
計	0	1	3	1	5	2	0	12

（障害者手帳の内容）

障害名	肢体障害	視覚障害	重複（視覚・精神）	重複（肢体・精神）	重複（肢体・知的）	精神	なし
人数	9	1	0	2	0	0	0

平成29年度 武蔵野市桜堤ケアハウス(軽費老人ホームケアハウス) 事業報告

武蔵野市桜堤ケアハウスの1年間の利用者動向は退所者が5人、新規入居者は0人となった。

この5年間に入居された方が全体の6割を超えて入居者の世代交代が進んでいる。入居者層は、①高齢化・虚弱化により要支援・要介護状態にある方々、②精神面で日常的に不安定な方々、③軽度の身体障害・知的障害のある方々、④旧くぬぎ園から転居してきた方々、⑤その他の方々と、5つくらいに分かれ、職員による支援の幅が広がり、その内容も多様になっている。また、入居者の理解力・判断力の低下、間違っただ思い込みなどによるトラブルもあり、職員による心理的社会的なサポート、人間関係・社会関係の調整などを日常的に行っている。

1. サービス提供形態と利用実績

サービス種類：軽費老人ホーム(ケアハウス)		延べ利用者数	利用率
定員	30名(個室26室・2人部屋2室)	9,526人	89.1%

2. ケアハウス利用者の状況について

(1) 入退所状況

(人)

	29年度当初	退所	入所	29年度末
男性	6	1	0	5
女性	22	4	0	18
合計	28	5	0	23

*退所者5人の転居先等是他施設への転居1名、死亡4名

(2) 年齢構成等

<平均年齢>

(歳)

	29年度当初	29年度末
男性	77.8	77.0
女性	87.7	87.9
平均年齢	86.0	85.6

<年齢構成>

(平成29年3月31日現在・人)

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
男性	1	2	1	1
女性	0	2	6	10
合計	1	4	7	11

(3) 要介護認定状況

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
29年度当初	3	2	8	1	0	0	0	0.9
29年度末	5	1	3	4	0	0	0	1.1

(4) 外部サービス利用状況

*重複あり

(平成29年3月31日現在・人)

	ホームヘルプサービス	通所系サービス	訪問看護	その他
男性	0	1	1	0
女性	6	4	3	0
合計	6	5	4	0

3. その他の実績

(1) ボランティア・見学、苦情等

ボランティア活動延人数：54人	見学者数(一般見学)：22人	苦情報告：0件	事故報告：0件
-----------------	----------------	---------	---------

(2) 多世代交流としてスペース提供(乳幼児・児童等と入居者との交流機会)

4階・ロビーを、毎週水曜日の午後に隣接する桜野小学校の生徒のけん玉クラブの練習場所として貸し出し、また、近隣の小規模保育室・保育ママさんの乳幼児たちの散歩コースとして開放している。

4. 食事提供、健康管理等

(1) 食事提供状況

利用者の食事形状では下表のような状況がみられている。

常食	21	粥・おかず普通	2	(平成30年3月31日現在・23名)
----	----	---------	---	--------------------

日々の健康状態を食事摂取状況からも把握ができるため、調理部門職員と生活相談員とが連携する。

(2) 健康管理等の状況

要支援・要介護状態にある入居者は、なんらかの外部サービスが入る(他の専門職の目が入る)ことで心身のバランスをとっており、精神面で日常的に不安定な方は漠然とした健康面等への不安を抱き、通院回数を増やす傾向もみられる。また、軽度の知的障害、高齢による判断力の低下等のため自己流の健康管理をしている方など、健康管理等でも様々な状況が見られている。その中で、週1回の嘱託医による健康相談、月1回の薬剤師によるお薬相談を利用しながら支援に取り組んでいる。

5. 相談支援等

入居者のニーズが多様で多問題化してきている中、それぞれの入居者に共通している傾向が、理解及び記憶力、判断力の低下である。その結果、施設の生活上のルール、マナー等への理解・対応が難しくなって入居者間でのトラブルが生じたり、勝手な間違っった思い込みによって人間関係の悪化に至ったりと、個人の課題に加えて、集団生活上の課題を抱えていくようになっている。

29年度は、「健康管理・疾病等に関すること」、「介護保険制度の利用に関すること」の相談件数が前年度より増えている。自身の健康状態に不安を感じる方が増え、必要に応じて関係機関とも連携をとりながら介護保険のサービスに繋げる相談支援もおこなった。また保証人が不在の方に対しては入退院、通院等の支援と成年後見等に繋げる支援もおこなっている。「日常生活全般・精神的なケア(人間関係調整等)」の相談も昨年度よりは若干減少しているが最も多い相談内容であり、日常生活上の細やかな支援と人間関係の調整、サポートなどが欠かせなくなっている。

健康管理・疾病等に関すること(体調管理、通院介助、医療機関との連絡調整など)	655件
日常生活全般・精神的なケア(食生活・住環境等の生活面、人間関係調整等)	1189件
介護保険等の制度利用に関すること(制度の紹介や申請・手続き、関係機関への繋ぎ)	118件

6. 各種事業実績

(1) 年間行事の実施状況

(人)

行事名	実施日	行事内容	参加人数
お花見	3/29	4階ロビーでのお茶会	13
学生寮新入寮生歓迎会	4/22	学生寮信陽舎新入生歓迎会	5
入居者個別面談	5月中に随時実施	入居者と職員の個別相談	28
お役立ち講座①	6/12	介護保険に関する説明<講師：ケアハウス施設長>	10
七夕飾りづくり	6/28	桜野地域社協と共同で七夕飾りづくり(小中学生参加)	約30名

お役立ち講座②	7/14	熱中症予防について〈講師：大塚製薬社員〉	9
夏の夕食会	7/20	学生寮生と親睦を兼ねたビアパーティとコンサート	28
ケアハウスレストラン①	8/24	夕食時に、好きなセット料理を飲食、歓談	27
敬老の会	9/18	式典とコンサート（近隣の小学校の生徒も参加協力して開催）	40
ケアハウスレストラン②	10/19	夕食時に、フルコース料理を飲食、歓談	26
西部コミセン文化祭	10/7. 8	入居者作品を展示（手芸・書道・俳句・写真等）	—
介護と福祉の地域広場	11/5	地域住民向けの介護・福祉の情報提供・イベント等開催	—
お役立ち講座③	11/30	口腔ケアについて〈講師：歯科衛生士〉	6
桜堤コミセン文化祭	11/11. 12	入居者作品を展示（手芸・書道・俳句・写真等）	—
外出活動	11/13	深大寺紅葉狩りと外食	8
外食活動	11/16	近隣の大学のカフェでお茶会	4
学生寮・寮祭	11/25	学生寮信陽舎の開寮祭	1
年忘れお楽しみ会	12/21	学生寮生、近隣小学校生徒と親睦を兼ねた年忘れ会	43
初詣	1/5	杵築大社へ参拝	7
新年お楽しみ会	1/24	小学生のけん玉クラブとのけん玉大会、交流会	20
節分（豆まき）	2/2	食堂での豆まき	20
学生寮卒業生祝会	2/24	学生寮信陽舎 4 年生の卒業祝い会	5
お役立ち講座④	3/8	音楽を使った介護予防講座〈講師：音楽健康指導士〉	12
季節の湯	5/2. 12/19	菖蒲湯、ゆず湯	—

(2) 趣味活動、他の実施状況

活動名	活動回数（実施月）	活動概要、他
手 芸	週 1 回	ボランティア講師による編物、刺繍等の教室
書 道	月 2 回	ボランティア講師による書道教室
さわやか健康くらぶ	月 1 回	体操のインストラクターによる健康体操
歌声サークル	月 2 回	音楽講師による音楽活動、歌の会。
手作りの会	月 1 回	地域のボランティアによる小物づくり教室
入居者懇談会	年 6 回（奇数月実施）	入居者と職員による懇談会（行事等の案内、利用上のルール等確認）
避難訓練	年 4 回 （6・8・10・12月）	学生寮生と合同の夜間想定防災訓練
健康相談	週 1 回	配置医師による健康面、持病等に関する相談
お薬の相談日	年 10 回	薬剤師による持薬や市販薬等の理解、健康についての相談

7. 入居者の募集・選考、入居の問い合わせ

(1) 募集・選考

29 年 7 月に二人部屋 1 室、11 月に一人部屋 2 室と二人部屋 1 室の募集を行った。11 月の募集時に一人部屋に 2 名応募があり、1 名が 30 年 4 月に入居予定となった。

(2) 入居に関する問い合わせ状況

居室形態	市内	市外	合計
一人部屋	17 件	5 件	22 件
二人部屋	2 件	0 件	2 件

平成29年度 武蔵野市桜堤ケアハウスデイサービスセンター事業報告

デイサービス利用者登録は毎月平均して50人前後で推移した。28年度より平日の定員を20名に減らしたが、年度間の延べ利用者数は75名ほど減った。長期欠席していた方が退所・施設入所され住処を移られる方が多かった。軽度の方は延べ354名減少し、要介護3以上の方は延べ404増えた。利用頻度では週1回の方が4割と多いが、1週間あたりの利用回数を増やす方が少しずつ増えてきた。

利用者を獲得し、定員を増やすために希望の多い入浴サービスの利用率を4名から5名に増やした。生活支援サービス(散髪・ゴミだし・郵便物の種分け等)を利用する方も少しずつ増えている。また、送迎時の利用者の居室内の環境整備や安全点検等もおこなっているが、職員による対応が困難になった場合にはヘルパー等によるサービスにつなげ利用継続できるように努めた。また、今年度の武蔵野市モニタリング・利用者アンケート調査の満足度、平均点とも高く既存の利用者の満足度は高い。昨年に引き続きフロア内の環境改善に力を入れ、明るく落ち着いて過ごせるサロンのような空間を作ることができた。その結果、認知症の方も徘徊されることが減り、サロンのような空間の中でゆったりと過ごせるようになった。

食事サービス関連では、配食サービス(市受託事業)は利用登録者が20人前後と減少し、延べ配食数でも約350食減少した。UR桜堤団地自治会と共同で運営している「よりあい食堂かよう」(毎週火曜日に昼食提供)は毎回30名弱の参加があり、利用者からの声で「歌の会(介護予防)」と「体操(介護予防)」を月2回ずつ、食事前に開催するようになった。また外部からの見学・視察の他に女子栄養大学(短期大学部)の学生が体験ボランティアとして3か月にわたり実習に入り、かよう利用者との交流を深めた。

1. デイサービス提供形態と利用実績

サービス種類：通所介護・介護予防通所介護＜通常規模型事業所＞		延べ利用者数	利用率
サービス提供 曜日・時間・定員	月～金曜日 ◆9：00～17：00 20人 土曜日 ◆9：00～16：30 15人	4,187人	74.4%

2. デイサービス利用者状況

(1) 要介護認定等結果

要介護者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計(人)	平均要介護度
延べ人数	1,422	1,080	1,167	426	19	4,114	2.16

要支援者	要支援2	合計(人)
延べ人数		

事業対象者	事業対象者	合計(人)
延べ人数	73	73

(2) 年齢構成

(平成30年3月31日現在・人)

	29年度当初	29年度末
男性	80.0	82.3
女性	85.2	87.2
平均年齢	83.8	86.3

	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
男性	1	0	1	4	3
女性	0	0	2	21	12
合計	1	0	3	25	15

3. 食事(配食)サービス利用実績

配食登録者(月平均)：約17人	1日配食数：約8食	延べ配食数：2,900食(お節含む)
-----------------	-----------	--------------------

4. その他の実績

(1) ボランティア関係

ボランティア活動延人数(合計 945人)	
デイサービスフロアボランティア： 696人	配食ボランティア： 249人

(2) 実習生等の受け入れについて

教員免許介護等体験実習生：20人	看護学生等実習生：1人	社会福祉士資格取得実習生：1人
------------------	-------------	-----------------

(3) その他

苦情件数：0件	事故件数：0件
---------	---------

5. プログラム提供状況

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操
午後	絵手紙 音楽療法 手芸	囲碁・将棋・ 麻雀、手芸 歌の会 個別機能訓練	陶芸 手芸 歌の会 ハンドドレナ ーजू	創作活動 (音楽鑑賞) 麻雀 四季の会	手芸 書道 音楽療法 個別機能訓練	レクリエーション 音楽クラブ

*お花見ドライブ、グループ外食などの外出等の活動を随時行う。

*スーパーによる出張販売日(月1回)と理容技術者ボランティアによる散髪・整髪(月2回)を実施。

6. 利用者の健康管理等

日常的には健康チェック(血圧のバイタルチェック等)を中心に取り組んでいるが、医療的ケアの必要な方には、看護職員による処置等を行っている。平均要介護度が軽くなったこともあり、医療的ケアの実績は減少している。

経管栄養(胃ろう)	0	吸引	0	(年度間の延べ処置数 件)
経管栄養(鼻腔)	0	気管切開	0	
人工肛門	0	MRSA	0	
バルーンカテーテル留置	37	透析	0	
インシュリン注射	0	尿ろう	0	
在宅酸素	96	自己導尿	0	
救急車搬送	1件			
歯科健診	2回実施(武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施)			
口腔ケア教室	2回実施(武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施)			
耳鼻科健診	0回実施			

7. 主な行事、活動報告実績

行事・活動名	期 日	内 容
お花見ドライブ	4/3~7	武蔵野市内や近隣の団地内等をドライブしてまわる
オープンコンサート	7/29・9/30・3/31	第5土曜日に地域住民を交えての公開コンサート
長寿を祝う会	9/13・15	コンサートを楽しみ、祝膳を味わう
介護と福祉の地域広場	11/5	地域住民向けの介護・福祉の情報提供イベントを開

		催。利用者作品も展示紹介
初詣	1/9～11	三鷹井口院へ参拝
新年会	1/17・18	コンサートや落語を楽しみ、祝膳を味わう
桜堤保育園児との交流	4/26、6/28、7/3、9/1、11/24、12/19、 1/10、1/25、2/27	園児の歌と踊りによる交流
ボランティア懇談会	5/22、12/19	ボランティアと日頃の情報交換と懇談。

8. 食事サービス関連の状況

(1) デイサービス利用者への食事提供形状等の配慮

利用者の食事摂取状況も多様化し、登録者約 50 人の内、下表の食事形状の工夫や配慮を行っている。

ご飯・おかず一口大	2	軟飯・おかず刻み	0	軟飯・おかず一口大	0	(合計7人)
軟飯・おかず普通	1	ご飯・おかず極刻み	1	粥・おかず極刻み	2	
粥・おかずワケ刻み	0	粥・おかず刻み	1	H 30.3.31 現在 <人>		

(2) 配食サービス(市受託事業)

配食サービス利用者への食事提供形状等の配慮

軟飯・おかず普通	1	H 30.3.31 現在 <人>
----------	---	------------------

(3) UR桜堤団地自治会と共同で「よりあい食堂かよう(コミュニティ食堂)」運営<会計上、デイサービス>

平成 26 年 9 月から開始したコミュニティ食堂は、年末年始・祝日を除く毎週火曜日・正午から午後 2 時に営業し、今年度は、延べ 1,258 人が参加、1 回あたり平均で 25 人が利用した。利用者のほとんどが、高齢の単身世帯・夫婦のみ世帯で日々、孤食状態の中、週に 1 回はここを訪れておしゃべりをしながら食事をされて過ごしている。



当日には、3 人の住民ボランティアがフロアで配茶、配下膳、お話し相手として協力し、また、夏・冬・春休みには近隣の桜野小学校の児童が体験ボランティアとして参加し、多世代交流の場にもなっている。在宅介護支援センターとデイサービスセンター、ケアハウスの相談員が、当番で受付・会計・相談コーナーを担当しており、公的制度や住まい、医療・健康面の相談の機会にもなり、必要な方にはサービスにつなげている。利用者の声に応じて、隔週で「体操(介護予防)」「歌の会(介護予防)」を開催し、毎回 15 名以上の参加があり好評を得ている。

昨年 7 月からはいきいきサロン事業として運営し、引き続き外部(UR 職員等)からの見学も多かった。

9. その他の実績

(1) 家族介護支援事業(市受託事業)の実施状況

講義内容：介護予防「早期からフレイル(虚弱) 予防—しっかりと歩く・動く—」

6/24(土)	武蔵野ふるさと歴史館 [西交会と共同開催]	講師：山形哲行 (認定理学療法士・ 専門学校社会医学技術 学院講師) [参加者合計] 39人
7/15(土)	桜堤コミュニティセンター [桜堤コミュニティセンターと共同開催]	
9/2(土)	西部コミュニティセンター [西部コミュニティセンター、桜野地域社協と共同開催]	
7/29(土)・9/30(土) 3/31(土)	「家族介護者もともに生演奏を楽しむ(コンサート)」 ～デイサービス・オープンコンサート～	[参加者合計] 102人

* 各地域への出前講座も定着し、今年度も地域の住民団体等の協力・共同開催で実施した。

平成29年度 武蔵野市桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター 事業報告

武蔵野市の西部地域(桜堤・境・関前)の高齢者総合相談窓口として、医療・介護・福祉サービスの情報提供・利用調整、権利擁護支援、地域づくり支援、民間ケアマネジャーへのケアマネジメント支援等を24時間365日絶え間なく行った(電話受付については、夜間帯はゆとりえへ転送)。

今年度は在宅介護・地域包括支援センターとしての業務が2年目を迎え、基幹型地域包括支援センターと協働しながら、地域ケア会議を関前地区で開催するとともに個別地域ケア会議を2回開催しケアマネジメントに取り組んだ。

総合相談支援の特徴は、地域としては境地区の相談件数が増加傾向にあり、相談内容では「介護保険に関する相談や認知症・精神面に関する相談、入退院支援等の保健・医療の相談」の割合が高まっている。また虐待防止等では全体件数は減少傾向にあるも「身体的虐待」によるものは増えている。

今年度からすべての在宅介護・地域包括支援センターに配置された生活支援コーディネーターは、市民社協と情報交換を行いながら、いきいきサロンの新規開設(1ヶ所)や継続運営(5ヶ所)の支援に取り組んだ。

1. 在宅介護支援センター(市受託事業)の報告

(1) 相談実績

【相談形態内訳】		【訪問地区内訳】	
形 態	件 数	地 区	実人数
電 話	1488	桜堤	509
来 所	262	境	596
訪 問	1525	関前	463
支援会議	81	合計	1568
その他	30		
合計	3386		

【援助内容別の相談割合…複数相談あり】

内 容	%	内 容	%
介護保険に関する相談	37.4	認知症見守りヘルパー	1.3
認知症・精神に関する相談	10.6	ショートステイ	1.2
保健・医療に関する相談	12.9	家庭的事項	1.4
ホームヘルプサービス	4.0	年金等経済的事項	1.1
デイサービス	5.4	権利擁護・虐待等	1.5
福祉用具	5.1	リハビリテーション	2.0
住宅改善・住まい	3.4	介護保険に関する苦情	0.2
食事サービス	2.3	その他(安心コール・安否確認等)	7.6
高齢者福祉施設(特養 他)	2.6	(合 計)	100

2. 地域包括支援センターブランチ(市受託事業)の報告

(1) 虐待防止(虐待対応件数) : 12件 *重複あり

身体的: 16件	経済的: 2件	心理的: 0件	性的: 0件	介護放棄: 0件
----------	---------	---------	--------	----------

(2) 権利擁護等対応件数 : 75件 *重複あり

成年後見制度関連: 8件	消費者被害: 1件	困難事例: 75件
--------------	-----------	-----------

(3) 地域連携等件数 : 119 件

地域連携会議 : 36 件	介護予防啓発 : 3 件	他機関との連携 : 80 件
---------------	--------------	----------------

(4) ケアマネ支援件数 : 265 件

個別の相談 : 148 件	同行訪問 : 75 件	担当者会議へ出席 : 42 件
---------------	-------------	-----------------

3. 居宅介護支援事業所実績状況

①年間認定調査件数 : 522 件 / 新規同行調査 : 157 件

②ケアプラン作成総数 : 121 件

介護給付ケアプラン作成数 : 98 件	新予防給付ケアプラン作成数 : 23 件
---------------------	----------------------

4. その他

苦情件数 : 0 件	事故件数 : 0 件
------------	------------

5. 特徴だった活動

①日々の業務の中で、認定調査・ケアマネジメント等の訪問、地域社協等への会議参加を通じて、地域の実情や課題把握に努めて、全職員で地域の実情・課題などの情報の共有化を図った。

②地域の集合住宅(団地等)、いきいきサロン、テンミリオンハウス、コミセン等に出向き、在宅介護・地域包括支援センターの総合相談窓口としての機能や役割、介護保険制度の利用や介護施設の種類の説明、消費者被害防止啓発、認知症の理解への取組を実施した。

③緊急・短期の福祉用具の貸し出しを行った。(年間 47 件)

④昨年度同様に日祝祭日の窓口相談に取り組み、365 日、地域における高齢者総合相談窓口としての役割を積極的に行った。

⑤家族介護支援事業として各種講座と介護者、介護経験者の集いの場のサロンを開催した。下記のとおり生活圏域内の各所において実施し、地域住民が参加しやすい体制を整えた。また介護体験等の情報交換や介護に対する共感が持てるように、少人数による家族介護者サロンを増やしている。

〔家族介護者教室「さくらちゃんの介護教室」〕

実施日	実施場所	講座内容	参加人数
6/22	桜堤ケアハウス	ミニ講座「熱中症予防」、介護者同士の懇談	16 人
7/19	関前コミセン	ミニ講座「宅配サービスの活用」、介護者同士の懇談	4 人
8/24	西部コミセン	ミニ講座「施設選びのポイント」入所施設編、懇談	16 人
10/19	施設見学	とらいふ武蔵野、グランダ武蔵境式番館をバス見学	21 人
11/16	桜堤ケアハウス	ミニ講座「施設選びのポイント」通所施設編、懇談	5 人
12/20	施設見学	あんず苑、あんず苑アネックス、武蔵野館デイ見学	16 人
2/22	桜堤コミセン	ミニ講座「上手に利用しよう介護保険・制度改正情報」	8 人
3/29	武蔵野プレイス	講演会「食を通じた健康寿命～病気や高齢者への備え」	25 人

⑥サービス事業者振興事業(西部第一地区別ケース検討会・地域ケア会議)を実施

4 月	地区別ケース検討会 「年間計画作成・情報交換」	10 月	地区別ケース検討会 事例検討会「高齢者夫婦ケース」
5 月	エリア別地域ケア会議 関前地区「なのはなサロンを通して」	11 月	地区別ケース検討会 事例検討会「徘徊高齢者ケース」
6 月	地区別ケース検討会 事例検討会「認知症独居ケース」	12 月	地区別ケース検討会 事例検討会「アルコール依存症ケース」

7月	地区別ケース検討会 事例検討会「高次脳機能障害ケース」 個別地域ケア会議2回開催 7/4「高齢者独居ケース」7/26「認知症」	1月	地区別ケース検討会 講義・事例検討「排泄を考える」 コンチネンスアドバイザー牧野美奈子氏
8月	休会	2月	地区別ケース検討会 講演会「メンタルケア・マネジメント」 メンタルクリエイト代表 江口 毅氏
9月	施設見学「国際福祉機器展」	3月	地区別ケース検討会 今年度の事例検討会の振り返り 「医療連携」等の情報共有・情報交換

⑦認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座、地域認知症講座を実施。

今年度は、一般市民、家族介護者、障害者グループホーム職員、スーパー従業員などへ講座を実施し、認知症や高齢者への理解を深めた。

実施日	実施場所	参加団体	参加人数
6/22	イトヨーカードー武蔵境店	イトヨーカードー職員	8人
7/5	桜堤コミセン	一般市民向け 地域認知症講座	20人
11/30	武蔵野プレイス	一般市民	24人
12/8	武蔵野プレイス	一般市民向け ステップアップ講座	40人
12/14	桜堤コミセン	一般市民	9人
2/6	武蔵野プレイス	一般市民向け ステップアップ講座	65人
3/5	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院ボランティア	39人
3/14	グループホーム 「くすの木」	グループホーム「くすの木」職員	9人

参加者
合計
214人

⑧認知症相談事業の実績

4/19	7/19	10/18	1/24
3人	2人	2人	2人

計9人

⑨民生児童委員との定例会を実施。

開催日	協議内容	参加者数
7/6	在支の役割説明・職員紹介ご挨拶、独居調査を終えて個別ケースや地域の情報交換	25人
2/14	いきいきサロン紹介、個別ケースや地域の情報交換	31人

6. 地域行事への参加

地域貢献と当施設を知ってもらうために、桜堤ケアハウス全体で地域イベントに協力した。

開催日	行 事 名	参加者数
4/8	サンヴァリエ桜堤桜祭り	約800人
6/3	西部コミセン祭り	約1,000人
8/25	桜コミセン夏祭り	約1,000人
11/10	関前コミセンまつり	多数参加

7. 地域に向けた各種講座の説明会（啓発活動）

地域住民（老人クラブ）、サロン（いきいきサロン）、テンミリオンハウス、地域社協での出張講座を開催し、介護保険制度、新総合事業、市単独事業等についての説明会等を実施した。

開催日	対象団体・講座内容	参加者数
4/19	関前福祉の会 総会	46 人
4/23	なのはなサロン 講座	12 人
5/24	関前福祉の会 運営委員会	40 人
5/30	かよう食堂 講座	17 人
6/11	なのはなサロン 講座	13 人
6/16	老人会桜寿会 福祉講座	16 人
6/17	老人会福寿会 福祉講座	30 人
7/26	テンミリオンハウスきんもくせい 講座	14 人
8/21	老人会さくら会 講座	30 人
8/23	関前福祉の会 運営委員会	32 人
8/29	かよう食堂 講座	15 人
10/14	関前コミセン 健康講座	9 人
10/31	かよう食堂 講座	11 人
11/1	境福祉の会 運営委員会	30 人
11/22	関前福祉の会 運営委員会	30 人
12/15	桜野地域福祉の会 運営委員会	30 人
1/24	関前福祉の会 運営委員会	29 人
1/30	かよう食堂 講座	15 人
2/20	境福祉の会 3 丁目ネットワーク懇談会	20 人
2/27	テンミリオンハウスきんもくせい 講座	16 人

8. いきいきサロン事業の報告

サロン名	サロン開催時間	サロン事業内容	開設年度
iki なまちかど 保健室	毎週 月曜日 10:00～15:00	OT による体操、チェアヨガ、ハンドベル、ぬり絵、手芸	H28 年度
寄り合い食堂 かよう	毎週 火曜日 11:00～14:00	理学療法士による体操、音楽療法士による歌、ケアハウス職員による学習会、食事会	H28 年度
マルセサロン	毎週 水曜日 13:30～15:30	体操、ぬり絵、朗読、カラオケ、交流会	H29 年度
五丁目クラブ	毎週 木曜日 13:00～15:00	体操、カラオケ、交流会	H28 年度
ルンルンサロン	毎週 土曜日 14:00～16:00	ペーパークラフト、折り紙、囲碁・将棋、麻雀	H28 年度
なのはなサロン	毎週 日曜日 10:30～12:30	体操、ちぎり絵、ボッチャ、食事会	H28 年度

【高齢者支援部門全体研修会及桜堤ケアハウス職員全体研修会の実績】

開催日	研 修 内 容	参加者数
8/15 (火)	◆高齢者支援部門・職員全体研修会 I pm6:15～8:15 武蔵野プレイス 4F フォーラムで講演会を実施。 講師…東洋大学 准教授 加山 弾 先生(地域福祉、コミュニティ福祉等担当)	58 名

12/11 (月)	◆高齢者支援部門・職員全体研修会Ⅱ pm6:15～8:15 武蔵野プレイス 4階・フォーラムで実施。 講師…文京区社会福祉協議会 浦田愛氏（地域福祉コーディネーター） 「文京区における地域福祉コーディネーターの役割と機能、取り組み等の状況」 講義とグループディスカッション	68名
2月/16 (金)	◆桜堤ケアハウス職員全体研修会 第1部：福祉の仕事の基本（*研修前のアイスブレイク含む） ○法令遵守 →（「法令遵守と人権」） ○個人情報保護 →（個人情報保護とプライバシー保護の違い等） ○福祉施設での防犯 →福祉施設での防犯対策 ○接 遇 →（サービスマナーとは、サービスマナーの実践と向上など/寸劇・グループワーク） 第2部：「大規模災害（大地震）時の防災対策について」 <DVD上映含む> ○大規模災害（大震災）についての概要説明	29名

平成29年度 ゆとりえ(特別養護老人ホーム・ショートステイ) 事業報告

平成29年度は特別養護老人ホーム(以下、特養ホームという)の退所者が2名と少なく、利用率は前年度同様の97.2%であった。その分、特養ホームでの空ベット利用ショートが少なくなり、特養ホーム・ショートステイ全体の利用率は前年度より若干下がり97.8%であった。

特養ホームの要介護度状況をみると、28年度との比較では、要介護5の割合が減少したが要介護3と4の割合が増加し、平均要介護度も4.1から4.19と高くなった。ショートステイの要介護状況では、要介護3の人が一番多く利用し、平均要介護度は3.42と大きく変わっていない。

29年度末現在の入所希望待機者は290人。要介護4・5の人が増加し、要介護4と要介護5の合計待機者数は、全体の約55%になっている。27年度の制度改正後(特養ホームの新規利用者は原則要介護3以上)、待機者は200人程減少したが、その後、待機者数は290人程度を推移している。

今年度は28年度に退職した非常勤介護職員の補充ができないままの職員体制で取り組んだが、さらに年度前半で非常勤介護職員1名が病気退職したため、日中帯の介護職員のサービス提供体制を1名減員せざるを得ず、業務内容等を再度見直して、通常のケアサービス(3大介護等)の量・質ともに大きく低下しないように取り組んだ。しかしその弊害は個別的な生活支援等や日常の余暇・レクリエーション活動に関われなくなったりと、グループ活動と個別活動それぞれの支援をバランス良く運用しての特養全体のケアを展開できなくなっている。生活が単調になったり、入居者同士のコミュニケーションも低調になってきている。また、看護職員組織の機能性、他職種連携力等の改善のために、看護職員を夏以降に1名減員して取り組んでいるが、看護職員が1人勤務の日も日常化し、介護職員、生活相談員の医療的ケア、通院付き添い等の関わりも増えている。

1. サービス提供形態と利用実績

サービス種類：特別養護老人ホーム・ショートステイ		総利用者数	利用率
特養ホーム定員	30名(個室10室・2人部屋2室・4人部屋4室)	10,651人	97.2%
ショートステイ定員	2名(個室2部屋)	774人	106.0%
合 計	32名	11,425人	97.8%

2. 特養ホーム入居者の状況について

(1) 入退所状況(平成29年度実績)

(人)

	退所(内、転り)	入所	29年度末
男性	1(0)	2	5
女性	1(1)	2	25
合計	2(1)	4	30

(2) 年齢構成等

<平均年齢>

	平均年齢
男性	83.6歳
女性	88.1歳
平均年齢	87.8歳

<年齢構成>

(平成30年3月31日現在・人)

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代
男性	0	1	4	0	0
女性	1	2	8	12	2
合計	1	3	12	12	2

(3) 要介護度状況(平成29年度実績)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
特養ホーム延べ人数			0	341	1704	4218	4388	4.19
(割合)	0%	0%	0%	3.2%	16.0%	39.6%	41.2%	
【※】28年度(割合)	0%	0%	0%	2.9%	12.6%	34.4%	45.4%	
ショートステイ延べ人数	0	0	32	120	311	114	197	3.42

(4) 利用者負担段階(居住費・食費の低所得者負担軽減区分)とサービス費用の負担割合(平成30年3月31日現在)

利用者負担段階	人数	負担割合	備 考
第1段階から3段階	16人	全員が1割等負担	補足給付(特定入所者介護サービス費等)の対象
第4段階	14人	1割負担=12人・2割負担=2人	

(5) 事故・苦情件数

事故：67 件 (内、1 件については武蔵野市に報告)、苦情 0 件。

3. 特養ホーム利用者の健康管理等 [医療・看護的ケア] (平成 29 年度実績)

退所者内訳	退所者 2 人。全員が死亡退所 (内、1 名が施設で逝去)。
入院件数及び人数	4 件。4 人。病名としては脳梗塞、肺炎など。
受診状況 (処方を受けている方)	定期受診者 29 人。
外部医療機関受診状況	139 回。受診者実人数 129 人 (うち、往診が 13 回・4 人)。
救急車搬送	0 件
看護職員緊急対応	夜間帯等電話指示 17 件 (オンコール対応)。夜間帯等臨時出勤 0 件。
経口維持加算算定	1 人
インフルエンザ予防接種	30 人

①医療的なケアを必要としている人数

○経管栄養 (胃瘻) ……2 人 ○吸引 (吸痰) ……必要時吸引 1 人

②武蔵野市歯科医師会の事業

毎月 1 回、協力歯科医制度で歯科医師と歯科衛生士による口腔内の診察と口腔ケアの助言・指導を受けている。また、摂食嚥下支援事業の一環で歯科医師が来所し、当施設の看護職員、介護職員、言語聴覚士等と連携しての利用者の摂食や嚥下のカンファレンスを行っている。

4. 介護・生活面の状況

(1) 排泄介助

個別の排泄アセスメントを定期的に行い、トイレへ誘導し洋式トイレでの座位をとっての排泄を原則として取り組んでいる。本人から希望を伝えにくい人については、排泄につながりやすい時間帯にトイレに誘導している。昼夜共におむつ使用の重度要介護者についても、排便につながる時間帯にトイレを使用しての対応を行っている。

H 30.3.31 現在

自立者	1 人	昼夜トイレ介助	10 人
昼夜オムツ交換 (排便時トイレ介助)	7 人	日中トイレ介助・夜間オムツ交換	12 人

(2) 食事介助と栄養ケアマネジメント

自己摂取できる人が減少し食事介助が必要な人が増え、また、誤嚥の可能性が高い人も多くなっている。管理栄養士、言語聴覚士の助言を受けて、食事形状、一口の摂取量、食器・食具等の使用方法、食事時間などについて検討を重ねて、安全でおいしく食べる環境を整えている。さらに、楽しめる食の提供を目的に、選択食 (月に 1 回) やイベント食も企画した。

【食事摂取の状況】

H 30.3.31 現在

自立者	4 人	見守り・声掛け・一部介助	14 人
経管栄養 (胃ろう)	2 人	全介助	10 人

【嚥下状態に応じた食事形態】

普通食	7 人	極刻み	3 人
一口大	9 人	ペースト・一部ペースト	9 人

【体調に応じた食事提供】

高栄養ドリンク	2 人	トロミ剤使用	15 人
高栄養デザート	2 人		

(3) 入浴介助

ほとんどの人が洗身、移動面での援助が必要な人である。高齢で肌が弱く乾燥傾向の方が多いため、清潔を保ち皮膚トラブルを防ぐ対応にも取り組んでいる。

H 30.3.31 現在

個別浴槽 (自立・一部介助等)	5 人	個別浴槽 (電動リフト使用)	11 人
		機械浴槽	14 人

(4) 機能訓練等の実施状況

理 学 療 法	土曜日
---------	-----

5. 主な行事、活動報告

行事・活動名	期 日	内 容
花見（桜見物）	4月初旬	近隣の桜を楽しむ
ハンカチの木バザー	4／16	ボランティア主催によるバザー
盆法要の集い	8／13	1年間に亡くなられた方を偲ぶ 看取り振り返り
吉祥寺礼祭（饗宴）	9／9	井の頭通り商店会の皆さんが御輿とともに来館
敬老会	9／17	家族とともに演奏を聴きながら長寿を祝う
新年会	1／14	家族とともに武蔵野囃子を楽しみ新年を祝う
選択食	18回	3種の献立から選んでいただく食事の提供（イベント食含む）
誕生会（入居者懇談会）	12回	入居者の誕生日を祝う
工作活動	24回	ボランティア指導による工作と合唱
お茶会	24回	ボランティアの振る舞いにより和菓子と抹茶を楽しむ
近隣学校との交流	随時	第三小、第三中、本宿小、立教女学院など
近隣保育園との交流	4回	松庵保育園児との交流
家族懇談会	5・9・1月	日常生活の報告、制度改正等説明、グループワーク

6. ゆとりえ特養ホームへの入所希望待機者の状況（Ⅱ 30.3.31 現在）

(1) ゆとりえ特養を希望する待機者の要介護度状況

待機者総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
290人	1	3	6	29	89	90	72	3.62
割合（％）	0.3	1.0	2.1	10.0	30.8	31.0	24.8	
平成28年4月1日の割合	0.2	0	6.3	13.0	32.1	30.5	17.9	【参考】
平成28年 都全体割合	—	—	6.8	12.2	29.6	28.9	22.3	【参考】

■待機者の要介護度別の状況では、要介護4・5の人の占める割合が多くなっている。待機者の平均要介護度が「3.62」になり、重度化傾向を示している。

(2) その他

○27年度の制度改正以降は、ゆとりえ特養ホームの待機者数が290人程度を推移している。最近は、ユニット型特養ホームや介護付有料老人ホーム等での利用料負担が難しくなってきたことでの申込者も増えてきており、多床室を希望する人も出てきている。

7. その他の実績

①利用者調査を実施（評価団体：特定非営利活動法人 特養ホームを良くする市民の会）

平成29年7月11日（火）～14日（金）にかけて利用者へのヒヤリングを行い、また家族アンケートも実施した。調査結果に基づいて、提供しているサービス内容等を振り返り改善に取り組むきっかけとなった。

②介護職員の人材確保困難

平成28年6月に非常勤介護職員1名の退職後、29年度も補充ができないままとなり、さらに病気等により1名の非常勤介護職員が退職した。人員体制が少なくなってもケアサービスの量・質ともに大きく低下させることなく提供体制や業務内容等を見直して行っているが、現場としては限界に近い状況になっている。今後は常勤の介護職員を増員することで提供体制の見直しを図る。

③地域住民の自主活動を支えるためのゆとりえスペースの開放

平成29年度より地域住民のサロン活動、趣味・健康づくりのサークル活動等を支援するために、ゆとりえスペースの地域開放を本格的に進めてきた。土曜日・日曜日にダイルームや相談室を使用しているのコーラス活動、手芸・パッチワーク活動等が定例化している。

今年度は10月～3月まで、吉祥寺南町コミュニティセンターが改修工事のため半年間ほど休館となり、日頃からコミセンで活動している老人会や子育て支援グループ等がゆとりえを定期的に使用したり、住民団体の月例会合にもスペースを活用された。また、10月22日（日）の衆議院議員選挙では、ゆとりえが吉祥寺南町3丁目地区の投票会場に急きょ指定され、約2,000人の住民（有権者）が投票に訪れた。

平成29年度 ゆとりえデイサービスセンター 事業報告

平成29年度は、利用登録者、総利用者数ともに減少し、また、28年度に退職した非常勤介護職員の補充ができないままでの職員体制で取り組んだ1年であった。総利用者は28年度と比較して391人(約4%)減少し、その主な要因は2単位(土曜日)の利用者減少によるものである。平日の利用率が80%を超えている中、土曜日の上半期は60%程度であったのが下半期には50%前後へとさらに落ち込み、土曜日の新規利用者は1名のみであった。土曜日の利用者減少と人員不足による勤務シフトが組めなくなってきたことから、2単位(土曜日)は30年度に定員やプログラム内容等を見直して準備に入るため、年度末でいったん休業(2ヶ月間)することにし、既存の利用者は他の曜日(平日)への移行を進めた。

利用者の要介護度状況は、28年度との比較で要介護1・2の利用者が減少して要介護3・4が増加(移行)し、重度化がさらに進んでいる(平均要介護度は28年度:2.42、29年度:2.51)。その結果、個別のケアへの取り組みも多くなってきており、特に運動能力の低下していない認知症の方へのケアの度合いが高まっている。なお、要支援1・2の利用者は、平成27年10月から開始された武蔵野市の新総合事業(通所型サービス)に、この1年間で全員が移行している。

武蔵野市の受託事業である配食サービスの利用者減少は止まらず、28年度実績と比較すると約12%の減少となった。配食ニーズも休日や夕食を希望する人も出てきており、現在の配食サービスではニーズを満たせなくなっているところもある。また、会食型サービス(ゆとりえキッチン)は、給食調理受託業者の人員不足により食事提供体制が整わず、今年度から営業回数を週3日から1日にした。

1. デイサービス提供形態と利用実績

サービス種類: 通所介護・介護予防通所介護・通所型サービス<通常規模型事業所>		総利用者数	利用率
サービス提供	月～金曜日 ◆ 9:00～16:30 40人	9,325人	78.8%
曜日・時間・定員	土曜日 ◆ 9:00～16:30 30人		

2. デイサービス利用者状況

(1) 要介護認定等結果(平成29年度実績)

要介護者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計(人)	平均要介護度
延べ人数	1499	3351	2434	1091	467	8842	2.51
(割合)	17.0%	37.9%	27.5%	12.3%	5.3%		
【参】28年度(割合)	19.3%	40.4%	23.6%	11.4%	5.3%		

要支援者	要支援1	要支援2	新事業対象者	合計(人)
延べ人数	0	0	483	483
(割合)	0%	0%	100%	
【参】28年度(割合)	1.6%	8.1%	90.3%	

(2) 年齢構成

(平成30年3月31日現在)

	29年度末		60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	100 歳代	合計
男性	87.0	男性	0	2	8	7	0	17
女性	89.0	女性	3	2	29	40	2	76
平均年齢	88.8	合計	3	4	37	47	2	93

3. 食事(配食)サービス利用実績(平成29年度実績)

配食登録者(月平均): 約27人	1日平均配食数: 12.7食	年度間総配食数: 3,723食(お節含む)
------------------	----------------	-----------------------

○食事内容への配慮として、粥への変更・嗜好に応じた代替え食への対応を行っている。

○28年9月頃からの利用者減少傾向は現在も続き、総配食数では、27年度:7,230食、28年度:4,231食、29年度:3,723食になっている。既存の利用者の中止・休止が続き、新規の配食利用者が減っていること(29年度の新規利用者は4人)が原因である。

4. その他の実績

(1) 会食型サービス（ゆとりえキッチン）実施状況

営業日数	47日	延べ来店者数	284人	1日平均来店者	6.0人
------	-----	--------	------	---------	------

(2) 事故・苦情件数

事故：13件（武蔵野市への報告は無し） 苦情：1件（サービス内容等に関するもの）

5. サービス提供内容等

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	○健康チェック（血圧、脈拍、顔色など） ○うた、レクリエーション ○入浴＜月～金曜日＞		○朝のつどい ○排泄ケア		○口腔体操 ○体操（スウェーデン体操、音楽体操） ○地域開放型コンサート	
昼食	○食事介助		○服薬		○口腔ケア	
午後	手芸、麻雀 アートクラブ カラオケ 旅の友 移動美容室 個別対応 個別機能訓練	口琴クラブ 絵手紙 カラオケ 書道 散髪 個別対応	みどりの会 水彩 カラオケ 囲碁・将棋 個別対応	書道、麻雀 旅の友 カラオケ 麻雀 個別対応	コーラス 手芸、麻雀 水彩 染め物 唱歌の会 個別対応 個別機能訓練	華の会 カラオケ うたクラブ 個別対応

○グループ活動を好まない人へは個別の対応を行った。休息や入浴後の静養等でベッド（6台）を活用。

6. デイサービス利用者の健康管理等

*医療処置延べ人数

経管栄養（胃瘻）対応	0人	バルーンカテーテル留置	3人
経管栄養（鼻腔）対応	0人	透析	0人
気管切開	0人	インシュリン注射	23人
吸引	12人	尿ろう	0人
人工肛門	0人	在宅酸素	90人
MRSA	48人	自己導尿	0人
歯科健診	2回実施（武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施）		
口腔ケア教室	2回実施（武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施）		
救急搬送	0回（転倒、転倒・発熱・血圧低下）		

7. 主な行事、活動報告

行事・活動名	期 日	内 容
花見ドライブ	4月上旬	市内の桜の名所を小グループでまわる
長寿を祝う会	9/13～15	楽器演奏、合唱を聴き、祝膳で楽しむ
新年会	1/17～19	楽器演奏などを聴き、祝膳を楽しむ
新年ドライブ	1月上旬	市内外の神社等を巡る
コンサート	37回	・うたクラブ＝23回 ・市民合唱団＝1回 ・サロンコンサート＝12回 ・他1回
近隣学校との交流	随時	本宿小、第三中、立教女学院、松庵保育園など
「食」に関する活動	随時	料理の会（5回）、バイキング（3回）
親子広場	18回	乳幼児親子と高齢者との交流プログラム（第2・4金曜日に開催）
その他		・散髪（12回） ・移動美容室（6回）

8. 食事サービス関連の状況

下記の利用者も含めて41名の人に対して、食事形態やごはん量の調整、禁食対応、食器の工夫や自助具の用意を行い、快適な食事を提供できるように環境を整えている。

粥/普通	8	ご飯/一口大	2	粥/刻み	1
粥/一口大	6	ペースト	2	肉のみミンチ or ソフト	4

H.30.3.31現在 (人)
(主食/副食)

9. その他の実績

(1) 家族介護支援プログラム(武蔵野市受託事業)の実施状況

①失語症の方とその家族(家族会)を支援する「失語症の会(秋桜の会)」を実施。参加者の減少等により、月2回実施(第2・4土曜日)していたのを7月からは月1回(第2土曜日)に減らして実施。

実施回数	15回	参加延べ人数		108人
------	-----	--------	--	------

*当会は、平成30年度から参加者・ボランティアスタッフによる自主活動グループとなる。

②家族介護者向け健康講座「早期からのフレイル(虚弱)予防と、しっかりと歩く・動く」の実施。

10/15(日)	ゆとりえ …吉祥寺南町コミセン休館のため [南町福祉の会と共催]	講師：山形哲行 認定理学療法士・ 専門学校社会医学技術学院教員 [参加者合計] 68人
11/19(日)	ゆとりえ [ゆとりえボランティア事務連絡会と共催]	
1/21(日)	本宿コミュニティセンター [東部福祉の会と共催]	

(2) 福祉サービス第三者評価を受審 (評価団体：特定非営利活動法人 特養ホームを良くする市民の会)

平成29年8月29日～平成30年2月15日の期間に第三者評価を受ける。提供しているサービスを客観的に見る機会となり改善に取り組むきっかけとなった。

平成29年度 ボランティア活動実績(特養・デイ・共通)

(1) 活動延べ人数

①特別養護老人ホームでの活動		
シーツ交換	200人	
洗濯物たたみ	430人	
整容	255人	
食事下膳	63人	
余暇活動、他(お茶会、クラブ活動、行事参加、傾聴、歌、他)	186人	小計 1,134人
②デイサービスセンターでの活動		
フロア活動(配下膳、話し相手等)	607人	
趣味活動等(プログラム活動講師・助手、補助等)	1,007人	
立教女学院学生ボランティア、料理の会、散髪、他	146人	小計 1,760人
③その他の部門での活動		
植栽、庭水まき	121人	
配食配達	415人	
事務連絡会、バザー他	91人	小計 627人
		合計 3,521人

(2) ボランティア懇談会等の実施

4/16(日)	ボランティア感謝の集い	47人
11/19(水)	ボランティア向け健康講座	8人
3/15(木)	配食ボランティア(試食会)	18人

平成29年度 実習生受け入れ実績(特養・デイ・支援での延べ人数)

武蔵野第三中職場体験学習	6人	杏林大学・看護学生実習	24人
社会福祉土現場実習	24人	教員介護等体験実習	50人
		合計	104人

平成29年度 ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センターの事業報告

武蔵野市の東部地域(吉祥寺南町・吉祥寺東町・御殿山1丁目)の高齢者総合相談窓口として、各種介護支援サービスの情報提供・総合調整、権利擁護、地域支援等の高齢者福祉サービスの事業を24時間365日行った。

今年度から生活支援コーディネーターが配置されたことにより、住民主体のさまざまな支え合いづくりや地域づくりへの取り組みに、職員が一丸となって取り組む土壌ができてきている。

また、南町福祉の会とゆとりえ(全セクション参画)とが共同して認知症カフェを試行開催し、地域における認知症の人とその家族等が集う機会となり、今後、住民主体の取り組み(居場所づくり等)につなげていく予定である。

個別相談支援の特徴としては、虐待通報に関する研修によりその基準が明確になり、ケアマネジャーをはじめ関係機関からの虐待疑いの通報が増えて、その対応件数が増えている。

1. 在宅介護支援センター(受託事業)の報告

(1) 相談実績

【相談形態内訳】

形態	件数
電話	1,020件
来所	335件
訪問	1,687件
支援会議	128件
その他	114件
合計	3,284件

【訪問地区内訳】

地区	延件数
東町	809件
南町	729件
御殿山1丁目	149件
合計	1,687件

【日祭日・夜間相談内訳】

地域	延件数
ゆとりえ	3,031件
ケアハウス	128件
不明	45件
その他地区	1件
市外	3件
合計	3,208件

【援助内容別の相談割合…複数相談あり】

内容	%
介護保険に関する相談	16.6
保健・医療に関する相談	11.0
認知症・精神に関する相談	9.7
デイサービス	9.7
福祉用具	9.7
ホームヘルプサービス	9.6
住宅改善・住まい	4.6
高齢者福祉施設(特養 老健 他)	4.0
ショートステイ	3.3

内容	%
食事サービス	3.1
家庭的事項	2.9
認知症見守りヘルパー	2.5
リハビリテーション	2.5
権利擁護・虐待等	2.5
年金等経済的事項	0.7
介護保険に関する苦情	0.4
その他	7.2
(合計)	100.0

2. 地域包括支援センター事業(受託事業)の報告

(1) 虐待防止(虐待対応件数): 33件

*重複あり

身体的: 30件	経済的: 0件	精神的: 6件	性的: 0件	介護放棄: 4件
----------	---------	---------	--------	----------

(2) 権利擁護等対応件数: 35件

*重複あり

成年後見制度関連: 5件	消費者被害: 0件	困難事例: 30件
--------------	-----------	-----------

(3) 地域連携等件数: 209件

地域連携会議: 77件	介護予防啓発: 62件	他機関との連携: 70件
-------------	-------------	--------------

(4) ケアマネ支援件数: 82件

個別の相談: 42件	同行訪問: 28件	担当者会議へ出席: 12件
------------	-----------	---------------

3. 居宅介護支援事業所の実績

①年間認定調査件数: 492件/新規同行調査: 135件

②ケアプラン作成総数: 243件

介護給付ケアプラン作成数: 127件	新予防給付ケアプラン作成数(総合事業含む): 116件
--------------------	-----------------------------

4. その他

苦情件数： 1 件	事故件数： 0 件
-----------	-----------

5. 通常活動の実績

- ①高齢者の孤立や異変を早期に発見するための情報収集と実態把握、災害時に備えた地域連携・協力体制の構築のために、地域福祉の会等の地域会議に参加し、啓発活動や情報交換を行った。
- ②医療機関や薬局、地域の店舗等に出向き、総合相談窓口としての機能や、ゆとりえ事業の説明を行った。
- ③緊急・短期の福祉用具の貸し出しを行った。(年間 82 件)
- ④夜間・日祝日を含めた 24 時間体制の相談体制を確保した。(夜間・日祝日の相談件数は年間 3,208 件)
- ⑤地域ケア会議を通して、地域住民と一緒に地域課題について考え、具体的な動きに取り組み始めている。

◇個別地域ケア会議

実施日	実施場所	内容	参加人数
6/14	ゆとりえ	不安を少しでも和らげ、安心して在宅生活を継続するための連携	9 人
3/14	ゆとりえ	どのように地域とのつながりを保ちながら在宅生活を継続できるか。	11 人

◇エリア別地域ケア会議

実施日	実施場所	内容	参加人数
3/10	御殿山コミセン	住民アンケートから見えること。声をきこう！かけよう！あげよう！	38 人

- ⑥家族支援事業として下記のように「ほほえみサロン(介護者、介護経験者の集いの場)」を実施。

コミセン等を活用することで、地域住民が参加しやすい環境と、少人数で介護者同士がじっくり話せるようにした。また、認知症カフェを開催するに当たり、認知症高齢者を介護するご家族にアンケート調査を行い、それを基に南町福祉の会とゆとりえ全セクション代表と一緒に協議を重ね、住民が主体となって実施することが出来た。

実施日	実施場所	講座内容	参加人数
6/22	南町コミセン	「おいしく食べて夏を楽しく元気に」料理講習会・茶話会	9 人
8/20	ゆとりえデイルーム	「フットケアで心と体をリフレッシュ」講座・茶話会	10 人
10/21	本宿コミセン	「知っておきたい高齢者施設の選び方」講演会・茶話会	24 人
12/20	ゆとりえ介護者教室	「高齢者向き民間配食の試食会」試食会・茶話会	8 人
2/18	ゆとりえデイルーム	認知症カフェ「カフェ君の名は」	55 人

- ⑦東部第一地区別ケース検討会の実施

事例検討会を年 5 回実施することとなり、民間事業所を含む主任介護支援専門員がスーパーバイザーの役割を担った。講演会についても在宅生活を継続するための大きな課題である摂食嚥下と排泄についても取り上げた。

4 月	年間計画作成 意見交換会(在宅医療の課題と展望)	10 月	講演会(夜間の排泄を考える)
5 月	講演会(摂食嚥下と食形態)	11 月	講演会(自分の心をケアする)
6 月	事例検討会(認知症見守り利用者)	12 月	事例検討会(精神疾患がある方の自立支援)
7 月	事例検討会(こだわりの数だけ悩んだケース)	1 月	講演会(大人の発達障害)
8 月	休会	2 月	事例検討会(適切な医療につながらない)
9 月	事例検討会(本人の望む生活と家族の思い)	3 月	今年度の振り返り ミニ講座(デイサービス活用のポイント)

- ⑧認知症サポーター養成講座の実施

依頼のあった開催に加え、ゆとりえ職員への講座を 2 回に分けて行った。

実施日	実施場所	参加団体	参加人数
7/31	そ~らの家	地域住民、そ~らの家スタッフ	32 人
10/17	ゆとりえデイルーム	ゆとりえ職員	19 人
12/12	ムウケア武蔵野	ムウケア武蔵野スタッフ	9 人
1/26	武蔵野商工会館	一般市民	38 人
2/22	ゆとりえデイルーム	ゆとりえ職員	12 人
合計			110 人

⑨認知症相談事業の実績 11人

5/10：3人	8/2：2人	11/1：4人	2/7：2人
---------	--------	---------	--------

⑩民生・児童委員との定例会の実施

実施日	実施場所	協議内容	参加者数
7/4	ゆとりえデイルーム	介護保険と総合事業・独居調査を終えて	22人
1/30	ゆとりえデイルーム	消費者被害について	20人

6. 生活支援コーディネーターが配置されたことによる「いきいきサロン事業」等の住民主体の動き

新たな「いきいきサロン」の開設には至らなかったが、東町4丁目都営集会室では「東町にここサロン」として月1回の集いの場が継続的に行われることになり、住民同士の働きかけやつながりの深まりが生まれている。

また、御殿山1丁目では、住民活動団体の代表や市民社協と共に住民アンケートを実施した。553世帯中、257世帯からの回収(回収率約46%)となり、住民が感じている困りごとや地域との関わりに対する意欲を明らかにすることができた。集計結果を基に3/10(土)には「エリア別地域ケア会議」を行い、地域生活課題等を共有し、マンション住民と戸建て住民との交流も生まれている。次年度に向けてそれぞれが新たな取り組みを始めるきっかけとなった。

高齢者支援部門及びゆとりえでの職員研修・研究会等の実績

1. 高齢者支援部門・職員全体研修会

開催日	研修内容	参加者数
8/15(火)	「地域の多様な生活課題、福祉課題とこれからの地域福祉」 講師：加山 弾 氏(東洋大学社会学部准教授)	48人
11/25(水)	「小地域圏域での地域づくり・さまざまな支え合いづくりに、 高齢者福祉施設としてどう取り組むか」 講師：浦田 愛 氏(文京区社会福祉協議会・地域福祉コーディネーター)	58人

2. ゆとりえ内部の研究会、研修会

(1) 委員会、研究会等の活動状況

①ソーシャルワーク研究会(9回開催。内、1回は豊島区民社協見学)

○法人の実践発表会に向けての作品づくり。

○高齢者福祉施設におけるソーシャルワーク機能について整理し、さらにゆとりえ特養職員によるコミュニティソーシャルワークの展開について検討した。

(2) 職員内部研修会

開催日	研修内容	参加者数
10/25(水)	感染症研修会<全体> 「施設における感染対策」 講師：岡 賢子 氏(看護師・東京福祉専門学校教員)	22人
9/21(水) 10/19(木)	高齢者虐待研修<デイサービス> 「養介護施設従事者等による高齢者虐待のとりえ方」講師：センター長	20人
2/21(水) 2/28(水)	特養全体会議・研修会<特養ホーム> 「看取り振り返り」 「グループワーク：今を大切に生きていく」講師：生活相談員、施設長	24人
11月 3月	褥瘡防止委員会研修会「褥瘡予防に有効な体位変換について」 施設サービス計画書(ケアプラン)作成勉強会 <特養ホーム>	8人

平成29年度 障害者支援施設準備室 事業報告

1 建設工事関係

(1) 工事関係

工事契約	株式会社 加賀田組（平成29年12月25日）
請負金額	金801,900,000円（うち消費税等59,400,000円）
工事期間	平成30年1月1日から12月31日まで
近隣説明	平成30年1月15日（月） けやきコミセン
安全祈願祭	平成30年1月28日（日） 参加者 武蔵野市長、安藤理事長、千種理事、桝折理事、高澤理事、栖雲評議員 地主、自治会長、近隣住民、設計士、加賀田組関係者他
工事苦情他	騒音振動、工事車両等の誘導、工事従事者のマナー、建物の外観等へ苦情やご意見をいただいた。訪問謝罪や工事の説明、工事現場への指導、工法変更、騒音振動計の設置等の対応をした。地中埋設障害物（仮設都営住宅のガス管など）が出現。
工事管理	毎週金曜日14時から総合建設会議を定例とし、進捗調整会議を行っている。その中で、騒音振動計の数値をもとに対策会議を行っている。

(2) 近隣住民（17世帯）対応

- 4月6日（木）武蔵野市役所会議室 近隣住民と市及び法人との話し合い 同意書案の確認
- 4月12日（水）武蔵野市役所会議室 近隣住民と市及び法人との話し合い 同意の確認
- 4月21日（金）欠席者への同意書内容の訪問説明と確認
- 6月22日（木）障害者総合センター 近隣住民との同意書の写し交換と懇談、見学
- 10月26日（木）けやきコミセン 工事変更及びフェンス、緑化等の説明

(3) まちづくり条例に基づく建設説明会等手続き

- 7月7日（金）説明会のチラシと資料を近隣配布、送付
- 7月17日（月）説明会①（けやきコミセン）参加者4名
- 7月20日（木）説明会②（けやきコミセン）参加者3名
- 8月1日（火）まちづくり条例に元づく意見書あり、法人見解書送付
- 9月5日（火）見解書の縦覧期間終了、意見なし
- 9月12日（火）説明会のチラシと資料を配布、送付
- 9月21日（木）説明会2回目①（けやきコミセン）参加者2名
- 9月23日（土）説明会2回目②（けやきコミセン）参加者1名
- 10月10日（火）意見公開終了、意見なし

(4) その他の地域対応

- 10月21日（日）地域福祉まつり「あったかまつり」へのご案内配布
- 11月11日（土）吉祥寺北町5丁目地域へ説明会資料配布
- 11月16日（木）吉祥寺北町5丁目町内会研修旅行（こころみ学園）理事長参加
- 11月24日（金）地域講演会「障害者の地域生活支援と入所施設の実際」山下望氏
- 12月10日（日）吉祥寺北町5丁目町内会餅つき会準備室参加

(5) 申請変更協議

10月18日東京都へ補助金申請等に関する申請変更協議書を提出、承認された。

- 変更内容
- ①南側歩道面のセットバックと緑化率維持のための設計変更
 - ②3階屋上への太陽光発電パネルの設置
 - ③防音対策及び行動障害のあるご利用者受け入れ希望等のための設計変更
 - ④厨房内の設計変更

2 利用者募集関係

(1) 募集人数：入所施設定員 40 人のうち 36 人（4 室は体験枠として別途募集）

(2) 利用者募集

利用説明会 平成29年12月14日(木)、平成29年12月16日(土)の2回開催

申込期間 平成30年1月22日(月)から2月15日(木)まで

申込者数 108 人

(3) 利用調整

利用希望者の障害者支援施設利用調整のために第三者の利用調整基準策定委員会を設置し、障害者支援施設における入所施設利用調整基準を策定。基準は、本人の状況（35点）、家族の状況（30点）、生活の状況（15点）、緊急度など特別な事由（20点）により点数化する。

利用調整委員会において施設の支援合理性（性別年齢、ユニット特性、専門的支援の有効性、特別に配慮すべき個別の事情）を勘案し利用調査名簿を作成し、準備室により利用調査を行う。調査結果を利用調整委員会に報告し、利用調整を行う。

利用調整基準策定委員会名簿

当事者 白土一郎 東京知的障害児者入所施設保護者会連絡協議会代表幹事

学 識 児玉安司 弁護士、医師、当事者家族

学 識 山下 望 東京都発達障害支援協会理事長

行 政 川畑俊一 東京都心身障害者福祉センター福祉司

行 政 笹井 肇 武蔵野市健康福祉部長

法 人 安藤真洋 社会福祉法人武蔵野理事長

利用調整委員会（名簿非公開）

学 識 弁護士

学 識 知的障害者事業者団体代表者

学 識 障害者支援施設の施設長

行 政 武蔵野市

法 人 社会福祉法人武蔵野

アドバイザー 東京都

3 その他

(1) 準備室ニュースの発行

第一号 平成 29 年 5 月 28 日発行

第二号 平成 29 年 8 月 21 日発行

第三号 平成 30 年 1 月 26 日発行